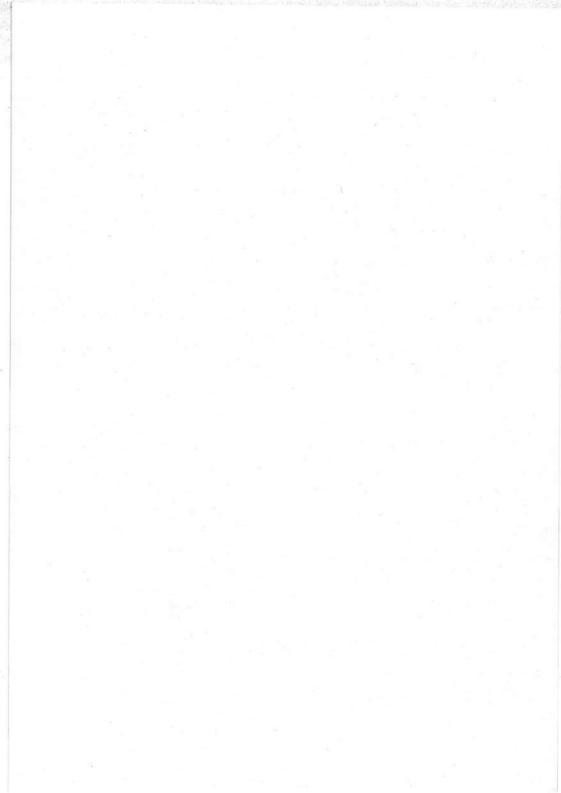


有機エビの



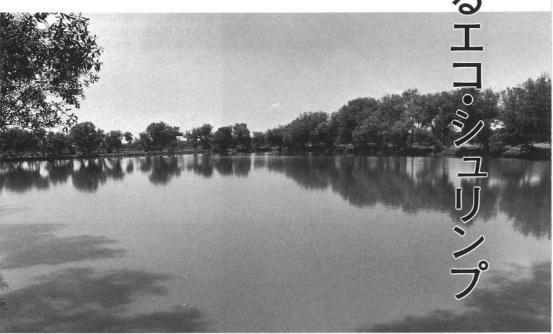
豊かな自然が育てるエコ。ショ

養殖エビというと、薬づけなんじゃないか、と心配される方も多いと思います。
インドネシアで伝統的に行われている知放養殖では、そうした心配はいりません。薬、人工飼料はいっさい使いません。粗放養殖のエビは、池に生える水草やプランクトンを食べて大きくなります。

ュリンプは、こうした粗放養殖で栽培されたきをうまく利用して行います。
カルター・トレード・ジャパンのエコ・シっています。池の水循環なども、潮の満ち引っています。

養殖池は古くから魚の養殖に使われてきた

エビです。



エコ・シュリンプの養殖池の一つ、ハジ・アリリド氏の池。

□稚エビは海から

エコ・シュリンプの稚工ビのほとんどは、海で捕獲されています。当然のように思われるかもしれませんが、次々とできた工ビ養殖池(人工飼料などを多用する集約型養殖池)の需要を満たすために、現在では「稚工ビ工場」のような所で人工ふ化されたものが使われています。海の汚染、海辺の環境破壊などにより、天然稚工ビの数そのものも減っています。

稚工ビを捕るための船の先には、三角の網 です。 漁民の捕った稚工ビは、集売人の所に集め です。

られてからエビ養殖池の池主に売られます。



差し出された白い貝殻の中に稚エビが入っている。長さは2センチぐらい、マッチ棒より細いがもうエビの形をして泳いでいる。



稚エビを捕るための船。 全長6メートル、帆とエンジンを併用している。

□有機農業のようなエコ・シュリンプの養殖Ⅰ



池の中にもどされるプラヤン。 入り口が狭くなっているので、 エビが中にはいると出られなくなる。



ょに養殖されているバン や池にすんでいるカニが入

っている。

います。 いるプラヤンに、自然に入るようになって

てくるエビが、取水口付近に仕掛けられて いて行われます。新鮮な水を求めて集まっ

収獲は竹製のしかけ

(プラヤン)をもち

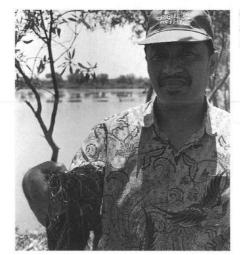
と呼ばれる魚が、エビといっしょに養殖さ 常に広く感じられます。この広い池を泳ぎ 殖されているものです。 的に食されている魚で、 はバンデン(英語名・ミルクフィッシュ 回りながら、エビは大きくなります。池に れています。この魚はインドネシアで一般 ヘクタール、集約型の養殖池と比べると非 国内市場向けに養

粗放養殖の池の広さはだいたい七~一〇

環境に不必要な負荷はかけない。こうして 生産されたものたちは、私たちへの自然か て行くのに必要な食料を持続的に生産する。 ます。自然環境を十分生かし、 粗放養殖は有機農業は通じるものがあり 人間が生き

らの贈りものなのです。

池主のハジ・アリリド氏。 手に持っているのはエビの餌に なる水草、ガンガン。

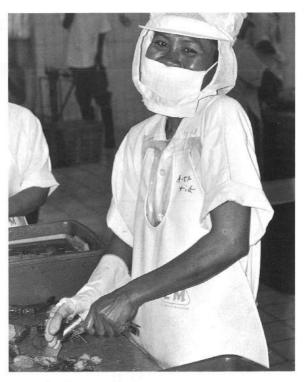


シュリンプを冷凍加工する人たち



ません。また、ここで最終的なパッケー まず頭が取られ、それぞれのサイズに分 ぞれの仕事を進めています。 の亜硫酸塩などの薬品は、いっさい使い けられた後冷凍されます。その後、袋詰 くは若い女性たち。みなテキパキとそれ の工場に、一一〇人が働いています。多 バヤ郊外にあります。近代的な設備のこ ように、日本で解凍して再パッケージす ジまで行っていますので、 エコ・シュリンプの冷凍加工場は、スラ この間、エビが黒くなるのを防ぐため ここに運ばれたエコ・シュリンプは、 箱詰めをして倉庫に保管されます。 一般のエビの

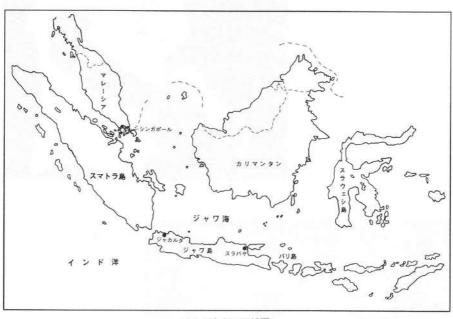
エコ・シュリンプの頭が 取られている。取った頭 をせんべい工場に売り、 労働者の互助会の資金に あてる。





ここで働いている人たちは、 みんな帽子をかぶりマスク、 白衣をつけている。 衛生管理は、非常に行きとど いている。

エコ・シュリンプは 東ジャワの スラバヤ近郊で養殖されています



インドネシアの地図

有機エビの旅 …………



◇有機エビを求めて

エコ・シュリンプと民衆交易の可能性 オルター・トレード・ジャパン(ATJ)代表

上智大学教授 村井吉敬

堀田正彦

農業ジャーナリスト/ATJ顧問

大野和興

8

7

◇著者紹介	検路に立たされたインドネシアのエビ養殖業	「生活と自治」記者内野・祐	池主ハジ・アムナン 74	農業ジャーナリストノATJ顧問大野和興	エビは神からの授かり物 62		神は真然小孫がらり発命といるまで、 日の旅	マルシアとパインのニカラグア 50	メルセス会シスター 弘田しずえ	一九九三年エビから見たニカラグア 40	中米の人びとと手をつなぐ会 狐崎知己	サンディニスタの行方	〇二カラグア 民衆はいま 35	
110	80		74		62	61		DU		40		30	33	

有機エビを求めて

世界一のエビ輸入国日本・・・。それは同時に日本人のエビ好きをあらわしは同時に日本人のエビ好きをあらわしな五だのほとんどは、人口飼料で飼われ、薬漬けの集約型養殖池でつくられたものだ。これに対して私たち(株)オルター・トレード・ジャパン(ATオルター・トレード・ジャパン(ATオルター・トレード・ジャパン(ATオルター・トレード・ジャパン(ATオルター・トレード・ジャパン(ATオルター・トレード・ジャパン(ATオルター・トレード・ジャパン(ATオルター・トレード・ジャパン(ATオルター・トレード・ジャパン(本社)が日本の消費者に提供しているのは、インドネシアの農民が昔ながらのは、インドネシアの農民が昔ながらの人である。

エコ・シュリンプが育てられる伝統的なエビ池は、その地域の環境をうまく生かし、自然の生態系を利用することで人工飼料は一切使わない。自然の力がそのまま生かされるから病気も出ない。従って薬もいらない。そんな飼い方をする。前者の集約型養殖池を工ない。従って薬もいらない。そんな飼い方をする。前者の集約型養殖池を工ない。従って薬もいらない。そんな飼い方をする。前者の集約型養殖池を入れる伝統業生産型エビ養殖と呼ぶとすれば、後業生産型エビ養殖と呼ぶとすれば、後業生産型エビ養殖と呼ぶとすれる伝統

をつくり、水をつくり、プランクトンは、まさに有機農業といってよい。土インドネシアにおける伝統池の飼い方

を発生させ、その循環に気をつかう。を発生させ、その循環に気をつかう。

ビの旅」
て日本の民衆が参加した「有機エニカラグア、インドネシア、そし

エコ・シュリンプの冷凍加工を行って、一行を受け入れ、案内したのは、た。一行を受け入れ、案内したのは、た。一行を受け入れ、案内したのは、の協力と橋渡しでインドネシアを訪れた。一行を受け入れ、案内したのは、

「有機エビを求める旅」が実現したのだ。経済状況も生活環境も文化もそれぞれ異なる三つの国の人々が参加しての異なる三つの国の人々が参加してのの。

デア・バスケスさん、通称マルシアさ グアからの参加者は二人。エフライ 約一〇日間にわたって続いた。ニカラ 民衆が組織しているエビ養殖組合連合 ニカラグア政府がこれから養殖エビ産 インさんとホアナ・フランシスタ・ビ ン・モンタノ・パリオスさん、通称パ 母子家庭で四人の子供の母親だ。 のエビ組合のリーダーの一人。三二歳 ルシアさんは同じ地域にある女性だけ のコーディネーターを務めている。 地として開発しようとしているプエル んだ。パインさんは男性、 ト・モラサン地域で農民や労働者など 「有機工ビの旅」は九月一〇日から 四四歳で、

る経過だけ、簡単に紹介しておこう。いただきたい。ここでは、この旅に至本文中の弘田しずえさんの文章を見て機工ビなのかについては、くわしくは機工ビなのかについては、くわしくは



ニカラグアは失業率七〇%、最大の 産業であった綿花が国際相場の暴落で だめになり、綿花畑は長年の連作と農 だめになり、綿花畑は長年の連作と農 界の最貧国の仲間入りをした。エビは 界の最貧国の仲間入りをした。エビは そうした状況を抜け出す有力な産業と して、政府が政策的に推進している部 えてマングローブ林を開発、集約的な エビ養殖事業を大々的に展開して外貨 を稼ごうという算段だ。

その土地の使用権の一部を、もうしたり程度に失業に苦しむ労働者や土地なし農民にも与えてエビ養殖を、ということで始まっているのがパインさんやマルシアさんの所属するエビ組合だ。やマルシアさんの所属するエビ組合だ。もかし、政府や銀行からたっぷり融資が受けられる企業と違い、農民や労働者の組合は資金がなく、近代的なエビ養殖池をつくることはできない。なに養殖池をつくることはできない。なに

破壊につながる。

ATJの代表である堀田が現地ニカラグアを訪れたさい、そうした彼らのラグアを訪れたさい、そうした彼らの大況を知り、インドネシアの伝統的粗状況を知り、インドネシアの伝統的粗状況を知り、インドネシアの伝統的粗状況を知り、インドネシアの伝統的粗状況を知り、インドネシアの伝統的粗状況を知り、インドネシアの伝統的粗状況を知り、そうした。

れていた。EPM社のスタッフの配慮から終わりまで確認できるように組まから終わりまで確認できるように組まから終わりまで確認できるように組まから終わりまで確認できるように組まから終わりまで確認できるように組まから終わりまで確認できるように組まれていた。EPM社のスタッフの配慮

だった南と南の技術交流本語、英語が飛びかい、にぎやかインドネシア語、スペイン語、日

事さだった。「この研修の旅で得たこと 事さだった。「この研修の旅で得たこと 事さだった。「この研修の旅で得たこと 事さだった。「この研修の旅で得たこと 事さだった。「この研修の旅で得たこと

人は繰り返し語っていた。

インドネシアの人々にも、今回の旅は大きな刺激を与えたようであった。 「南」の国とはいえ、ここ一〇年のめざましい経済成長は、よくもわるくもインドネシアを大きく変えた。そうしたなかで「南」の国どうしの民間協力が、なかで「南」の国どうしの民間協力が、なかで「南」の国どうしの民間協力が、なかで「南」の国どうしの民間協力が、なかで「南」の国どうしの民間協力が、なかで「南」の国どうしの民間協力が、なかで「南」の国どうしの民間協力が、「今回の交流でニカラグアの人々を受け入れ、情報や技術を伝えることができたことを誇りに思う」と語っていたのが印象的であった。

た、とさえいえるかもしれない。
関係を実現するきっかけをつくりあげた枠組みを越えた民衆どうしの新しいたが、とさえいえるかもしれない。

オルター・トレード・ジャパン 広報室

を必ずニカラグアで生かしたい」と二

そこで、ハジ・アムナンという名人に出会ったんです。 この人がすごいんですよ。 エビが、コメを作るような農業的感覚で養殖されている現場に はじめて出会ったんです。 (堀田)

安全で環境を守るっていうだけじゃなくて、 公正という点を考えねばならない。 社会的公正ということが大事です。 (村井)

エコ・シュリンプと民衆交易の可能性

村井吉敬(上智大学教授)

堀田正彦(オルター・トレード・ジャパン(ATJ)代表

大野和興(農業ジャーナリスト/ATJ顧問)

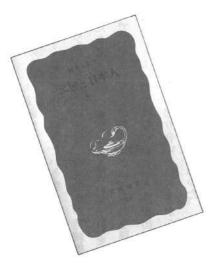
民衆交易としてのエビ輸入

大野(進行) 今日は村井、堀田両氏の対談という形で、大野(進行) 今日は村井、堀田両氏の対談という形で、エビを食うのはいかがわしい、という気分が定着した。そのエビを民衆自身によるもうひとつの経済仕組みづくりをめざビを民衆自身によるもうひとつの経済仕組みづくりをめざでを民衆自身によるもうひとつの経済仕組みづくりをめざてもらえますか。私は進行役ということで、時々介入させてもらえますか。私は進行役ということで、時々介入させていただきます。

村井 確かに「いかがわしい」というような反応があった村井 確かに「いかがわしい」というような反応があったのは事実です。エビは食っちゃいけないっていう非常に倫理的な受け止めをする人がいますけど、僕は食っちゃいけないっていっ間い掛けをしたまでです。実際にやっぱり僕は食い過ぎだと思う。海で捕ったエビ、養殖エビ含めてだけど、現場を歩けば歩くほどあらゆるところでエビは日本向きに作られていってる。地元の土地であり海であるにもかかわらず、全部が日本向けになっちゃうという、そんな国際交易そのものがやっぱり問い直されなければいけない。そう易そのものがやっぱり問い直されなければいけない。そうあそのものがやっぱり問い直されなければいけない。そうあるのものがやっぱり問い直されなければいけない。そうあるのものがやっぱり問い直されなければいけない。そうあるのものがやっぱり問い直されなければいけない。そうあるのものがやっぱり問い直されなければいけない。そうあるのものがやっぱり問い直されなければいけない。そうあるのものがやっぱり問い直されなければいけない。

とはちょっと違う。

もうひとつは、養殖はいかがわしいという観点があるけれども、実際の養殖というのは、台湾方式みたいな薬浸けです。そこで作られたエビなり、あるいはミルクフィッけです。そこで作られたエビなり、あるいはミルクフィッシュ(注1)なりというのは、まさにサステーナブル・デシュ(注1)なりというのは、まさにサステーナブル・デーというような考えが当てはまる。エビを食うんだったらそういうところのものを生産者の顔を見ながら食えば、今そういうところのものを生産者の顔を見ながら食えば、今そういうところのものを生産者の顔を見ながら食えば、今そういうところのものを生産者の顔を見ながら食えば、今



1988年に出版された岩波新書 「エビと日本人」。 それまで一般化していなかっ たエビ生産の問題点などを明 らかにした。 村井吉敬著

いろんな議論があった。
いろんな議論があった。
いろんな議論があった。

堀田 鏡のようにツルツルにしている。養殖エビだけが悪い ったと思う。 それを見直すきっかけがたぶん『エビと日本人』の発刊だ があります。 費者側から見ると「天然物は健康に良い」という思い込み いけない、 からは「内水面栽培漁業」というものを考えていかなきゃ がえった。 になって、 られ、流通され、 によろしいからいい商品であるという概念が一般的です。 ではない。あの本の中で、どういう仕組のなかでエビが捕 民衆交易のエビというのは、 という生協の側の提案から始まっています。 天然であれば健康にいいんだという発想がくつ 海でトロール漁で乱獲されるエビは、 海で捕ったものは天然であり、イコール健康 食卓にのぼるのかっていうことが明らか 積極的な面では、 海底を わ 消 it

それに加えて、二〇〇海里問題を始めとして、日本の漁

業そのものが収奪型の乱獲漁業からどんどん撤退せざるをえなくなってきているという事情がある。そんな中でグリーンコープの水産部は、環境的かつ持続的な漁業のありかたを考えていく必要があるという方針を打ち出していた。で、そういうなかでエビというものを課題として考えていってもよいのではないかという話が出ていた。そこにたまたま村井さんの知り合いという方から、エビをやらないかというインドネシアの話があった。

開発輸入型でもないエビでなければならない。そんなもの我々がエビをやるとしたならば、当然、乱獲型でも、乱

うこともありました。バナナだけでは事業的に弱い、もうまった。もうひとつは、ATJの経営基盤を固めたいといがあるんだろうか、あったらやろうというところで話が始

ひとつ何か基盤になる事業はないかということです。

田、乱開発された海岸地帯が延々広がっていて、その中ではスマトラでした。ここはインドネシアの植民地の歴史をはスマトラでした。ここはインドネシアの植民地の歴史をはスマトラでした。ここはインドネシアの植民地の歴史を



ハジアムナン氏の粗放養殖池。池そのものが、 自然の一部という印象を受ける。

正にしてみたいと。金さえあればそうしたいという姿勢が を聞いてると、スキあらば拡大して、近代的な集約型の養 を聞いてると、スキあらば拡大して、近代的な集約型の養 を聞いてると、スキあらば拡大して、近代的な集約型の養 を聞いてると、スキあらば拡大して、近代的な集約型の養 を聞いてると、スキあらば拡大して、近代的な集約型の養 を聞いてると、スキあらば拡大して、近代的な集約型の養



非常に強かったんです。それで、これは駄目ではなかろうかという感じをもった。次に東ジャワのスラバヤにもいろんな池がありますよと言うんで行きました。そこで、ハんな池がありますよと言うんで行きました。そこで、ハがですよ。そこで、エビが米を作るような農業的感覚で対・アムナンという名人に出会ったんです。それは、養殖されている現場にはじめて出会ったんです。それは、非常に感動的でしたね。集約型の養殖やスマトラの確かに非常に感動的でしたね。集約型の養殖やスマトラの確かに非常に感動的でしたね。集約型の養殖やスマトラの確かに非常に感動的でしたね。集約型の養殖やスマトラの確かに非常に感動のでしたね。

との出会いの第一印象です。域自体が豊かな感じがあって。これが、エコ・シュリンプは自体が豊かな感じがあって。これが、エコ・シュリンプ

考えた。多少他の消費者に心理的インパクトもあるだろうち、多なでのでで入れることは意味があるのではないかと見える関係の中で入れることは意味があるのではないから、こちらは先手をうってエコロジカルなエビを生産者の顔のこちらは先手をうってエコロジカルなエビを生産者の顔の見える関係の中で入れることには反対の意見も多村井 民衆交易としてエビをやることには反対の意見も多村井 民衆交易としてエビをやることには反対の意見も多

工場が介在したり、ということもある。
エビの流通過程にはかなり技術集約的・資本集約的な冷凍遠いところから食べものを運ぶこと自体の問題性もあるし、エビ輸入への見直し気運というようなものも出てくるし、エビ輸入への見直し気運というようなものも出てくる

堀田そう、なかなか民衆直結とはならない。

生産者だけが集った養殖組合であればもう少し理想的かも村井 それから向こう側の池主の問題もある。つまり、小

回行ったときもつくづく感じたんだけど、百姓なんですね。主を通してやるしかない。だけどアムナンという人は、今りあえずアムナンとか、アリリドというまさに不思議な池しれないけど、そこまで全部理想的には進められない。と

堀田 そうですね。

村井 農民の発想っていうのか。土を大事にするっていうがあるだろうという気がしますね、もっといろいろ学ぶことがあるだろうとだけじゃなくてね、もっといろいろ学ぶことがあるだろうという気がしますね。

いう不安を感じていました。 ということで、これはどうしても民衆交易ではないなとをということで、これはどうしても民衆交易ではないなとるということで、これはどうしても民衆交易ではないなとるということで、これはどうしても民衆交易ではないなとなるということで、これはどうしても民衆交易ではないなどは、それから輸出のプロさんがおった。 僕は最初、いま村井堀田 議論は確かにあったんですね。僕は最初、いま村井

の民衆交流を通して作ってきたものですが、それと違うもただその時に、民衆交易っていうのは僕らはバナナ村と

うひとつのタイプもあり得るかなという仮説が生まれてきたんですね。それは何かっていうと、いわゆる既存の多国に対して、その構造を利用しながら、中身や価値観を換骨をのためには、輸出側に少なくともATJの狙う方向に協力してもらえる冷凍工場があること。それから、環境を絶力してもらえる冷凍工場があること。それから、環境を絶力してもらえる冷凍工場があること。それから、環境を絶力してもらえる冷凍工場があること。それから、環境を絶力してもらえる冷凍工場があること。それから、環境を絶力してもらえる冷凍工場があること。それから、環境を絶力してもらえる冷凍工場があること。それから、環境を絶力してもらえる冷凍工場があること。このだということに価値を見出してる生産者がいること。このだということに価値を見出してる生産者がいること。このだということに価値を見出してる生産者がいることが新しい枠組として民衆交易の概念に加わりました。

それは非常に信頼に足るものだと思うんです。といけないとがんこに言い張っているし、それから集約型のいけないとがんこに言い張っているし、それから集約型のいけないとがんこに言い張っているし、それから集約型のいけないとが、に言い張っているし、それから集約型のいけないとが、に言い張っているし、それから集約型のこの点では、ハジ・アムナンは絶対に集約型はやっちゃ

うまくいかなかった。冷凍工場っていうのはどうも投機的ただ初期の開発の段階では、冷凍工場と池主との関係が

撤収するという。それには集約型エビ養殖は非常に適してお売る、そこで儲けようとする。この傾向は、多分、台湾ら売る、そこで儲けようとする。この傾向は、多分、台湾ら売る、そこで儲けようとする。この傾向は、多分、台湾というか、エビの安い時に買い付けて、市場が高くなったというか、エビの安い時に買い付けて、市場が高くなったというか、エビの安い時に買い付けて、市場が高くなったというか、エビの安い時に買い付けて、市場が高くなったというか、エビの安い時に買い付けて、市場が高くなったというか、エビの安い時に買い付けて、市場が高くなったというか、エビの安い時に買い付けて、市場が高くなったというか、エビの安い時に買い付けて、市場が高くなったというが、

○破綻した集約養殖のあとに

る。

村井 だけどね、今度バリから東ジャワの海岸を歩いて、大力ではいかでは、一点では、大人どもう経済的に破綻をきたしています。ものすごい膨大な皆金抱えてる。しかも生態的にいえば、病気の発生がかなり広がり始めてて、操業してない池が随分出始めてるし、なりあった。そういう意味でいえばね、我々のエコ・シュなりあった。そういう意味でいえばね、我々のエコ・シュリンプしか残らないだろう、と思う。

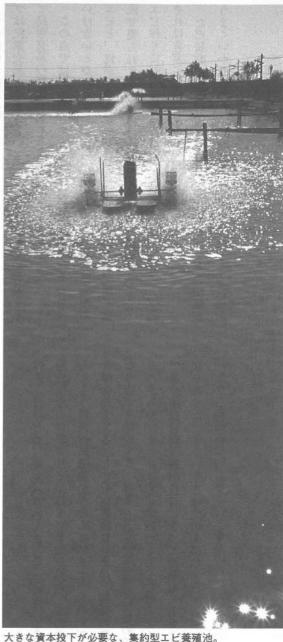
堀田

結果的にはね。

が、大変な課題だと思う。 村井 で、どういう持続的な関係を本当に作っていくかというの ような交易のやり方に今度商社なりなんなりが介在してく た。余りに正しすぎて逆に不安とすら思える。つまりこの る可能性があるわけです。その場合にアムナンみたいな人 商社にかっさらわれるようなことになったら困るわけ そういう意味で、ATJの狙いはちょっと正しすぎ

得るかなという情見が正まれてる

堀田 のしか売らないという姿勢が強固ですから。 生産ですから売値にあまり影響されない。そして出来たも らも完全に超越している。 本当に自立農民ですよね。 ンとかハジ・アリリドとかいう我々の池の生産者、 これが要だなと思っているんです。ただね、 それから冷凍工場との協力関係がどこまで緊密に作れるか、 そう、 そう。 長期的に見ても生産者との信頼 彼らのエビは基本的に低コスト ある意味では国際マーケット ハジ・アムナ これは 関



大きな資本投下が必要な、集約型エビ養殖池。 飼料の使用、過密な養殖など、エビの生態 自然環境を考え ていないため病気が発生しや

堀田 増産しない。そうすると、まぁ何がきても逆に言えいこわくないというところがあるわけですよね。捕れたもです。交渉していてもほとんど行き詰ってしまうところがあるわけで。冷凍工場が買入競争をすれば、値段がどんどん天井知らずに高くなるとか、そういうことがあるわけです。だから、エビ産業で生き残れているのは唯一粗放生産者だけですよ。工場も集約池も思惑が外れれば惨敗で生産者だけですよ。工場も集約池も思惑が外れれば惨敗で生産者だけですよ。工場も集約池も思惑が外れれば惨敗で生産者だけですよ。工場も集約池も思惑が外れれば惨敗で

いくということになるんでしょうね。すると同時に、新しい産地作りをめざして周辺へ進出してる商社としては、ひとつはATJが開拓した方向を後追い大野(進行) そうした集約型がだめになって、買い付け

すよね。それでインド、パキスタン、バングラとかに行くをは今のところ一番良かった。そこがちょっともう天井でめになり、それでタイに行って同じ様な問題に直面して、めになり、それでタイに行って同じ様な問題に直面して、めになり、それでタイに行って同じ様な問題に直面して、からいから、それでインド、パキスタン、バングラとかに行くをは、集め池自身が持つ問村井 まず台湾でコスト高の問題と、集約池自身が持つ問

堀田 ベトナムとかね。

気配がある。

村井でしょうね。

池の造成にすごいコストかけてますからね。 てしまいますよね。とにかく電気は使ってるし、エサ代や果的に国際マーケットと完全に直結させられた経済になっ堀田 一攫千金を夢見て集約型養殖に走った人たちは、結

ますから、はたして同じ轍(てつ)を踏むかどうか。ただ、として集約池はだめだってことがかなり知れわたり始めてたりがこれからターゲットにされてきている。だけど経験村井(そうですね。ビルマとか、南アジア、インドシナあ

ういう二本立てで進んでいくんじゃないかな。的なものを見直していこうという動きも、出始めてる。そ的なものを見直していこうという動きも、出始めてる。そやれるとこはやっちゃえっていう考えですすむ可能性ある

○エコ・シュリンプと連帯運動

東バナナはATJしかなかったんですね。それが今やいろ 東バナナはATJしかなかったんですね。それが今やいろ 東バナナはATJしかなかったんですね。それが今やいろ 東バナナはATJしかなかったんですね。それが今やいろ 堀田 商品開発的に見た場合でも、我々の場合、価格優位性と うふうに聞いています。ただ、我々の場合、価格優位性と いいますか、ATJの利益が低い分、現地側にかなり高い ところやる気はないだろうなという気はします。日本のエ ところやる気はないだろうなという気はします。日本のエ ところやる気はないだろうなという気はします。日本のエ ところやる気はないだろうなという気はします。日本のエ ところやる気はないだろうなという気はします。 ところやる気はないたんでする。 ところいるのというなんだと

質なんだという点が重要なんだろうなと思うんです。現地との経済的な関係として、現状の貿易とはまったく異交易というのは、扱っている商品特性が特殊というよりも、ベストフリーとか言い出してますからね。ですから、民衆んな所が、本当かどうか別として、無農薬とかポストハー

村井 エコ・シュリンプの打ち出しかたもね。エコロジーATJのもう一枚の看板である、公正という点を考えねばならない。社会的公正ということが大事です。そこを本当に意識的に日本の消費者が自覚しないと、安全であればいいというだけになってはまずいわけです。いというだけになってはまずいわけです。

大野(進行) さっき村井さんが「顔の見える関係」とい大野(進行) さっき村井さんが「顔の見える関係」といく野(進行) さっき村井さんが「顔の見える関係」といくりになっているんですが、エビの場合にはネグロスの農

堀田 エコ・シュリンプツアーというのは、計画としては



エコ・シュリンプの冷凍加工を行っている、EPM社の加工場。ここで110人の人たちが働いている。大部分は若い女性たちだ。

ば、是非やりたいなと思っています。

(EPM社) の方とも投機的なエビ生産は駄目だという話が

やっとそういう基盤が出来た。一年やって、

冷凍工場

うふうなものは、

生産者はいるけれども民衆がいない。

だから交流というよ

旅も楽しみ生産者とも話し合えるようなツアーとい

ATJのほうがもう少し余力が出てくれ

あります。

ただちょっと遠いというのと、

との直結した交流関係をもっときちっと作ろうということ から。 段を積み上げて、さらに一定の工場側の利益を保証してい くらかかるのか、そういうのを積み上げたうえにエビの値 かかるのか、 場に対する再生産保証が必要ですね。生産コストにいくら ると思う。 できるようになった。そのためには、輸入する側からの工 善していくこと。ここがひとつすごく重要な要素としてあ わけで、それでバタバタとエビ工場が倒れていくわけです 今までは、 るわけです。 これからの課題としては、 それからもうひとつが、 国際価格の読み次第で儲けの浮き沈みが激しい 人件費がいくらかかるのか、 一回の儲けは少なくても必ず儲かるというね。 工場の労働者の労働条件を改 エビの生産者と消費者 工場の機械が

村井 EPMの工場で今度聞いた話は、EPMには労働組付井 EPMの工場で今度聞いた話は、EPMには労働組

> のを、なんか感じたんだけれども。 一種のインドネシアの若いインテリの理想主義みたいなも大野(進行) 今度の旅でEPMの人たちとつきあって、

非常にこうウェットなジャワ気質みたいなものがミックスズされた、まあ経営者イメージっていうんですか。それに感じ取ってるのは、育ちの良さと、それからアメリカナイ堀田 僕は英語でしか交流できてないんだけれども、僕が堀田

されてて。とてもいい人たちが多いですね。

村井だからネグロスの協同組合的な、ある種イデオロギ村井だからネグロスの協同組合的な、ある種イデオロギで、外国資本と組んでじゃんじゃんやってもうけようといて、外国資本と組んでじゃんじゃんやってもうけようという思想。もうひとつはナショナリズムを重視する方向性でう思想。もうひとつはナショナリズムを重視する方向性です。

堀田なるほどね。

いう気持ちはありますね。

来の長い伝統があるわけです。協同組合方式を重視する。村井 ナショナリズムに基いた開発というのはスカルノ以

リストがいる。これが伝統的にインドネシアでかなり強い想がある。多国籍企業や世銀、IMFに反発するナショナそれから重化学工業も含めて国産の方がいいんだという発

経済思想です。EPM社の社長も、ある意味で若い理想主

流する、つまり第三世界のピープル対ピープルの交流が大インドネシアの農民と、それから養殖組合員どうしが大交義者なのかもしれない。今度も最後にニカラグアの農民と

事だっていうようなことをね、自分で言い始めているよう

第三世界との交流というか連帯連動とはちょっと違った枠ね。日本がその間に入るわけだけれども、なんか今までのなところがある。ある意味で面白い交流になると思います

組みが生まれてくる可能性はありますね。

う気がしますね。
う気がしますね。
う気がしますね。

○なぜニカラグアで粗放養殖なのか

が、ニカラグアの労働者や農民がなぜエビなんですか。大野(進行) さてそこで、いま話に出たニカラグアです

堀田 もともと二カラグアとは、エビでつながっているわけじゃないんですね。直接的には、弘田さんという人がいて、ニカラグアとの民衆交易を考えていきたいという人がいて、ニカラグアとの民衆交易を考えていきたいという提起で、ニカラグアとの民衆交易を考えていきたいという提起に行きました。その時に、ニカラグアにどんな農民運動がに行きました。その時に、ニカラグアにどんな農民運動がに行きました。その時に、ニカラグアにどんな農民運動があるか見て回りましょうということになって、プエルトモあるか見て回りましょうということになって、プエルトモあるか見て回りましょうということになって、プエルトモカという優れた人と出会ったりして、伝統粗放養殖のエビをはいわば素人なんですが、インドネシアでハジ・アムナンという優れた人と出会ったりして、伝統粗放養殖のエビの池をかなり見て廻っていたわけです。

サンディニスタ時代(注4)に土地をもらい受けて、そ

に行って、それのまねをしたということなんです。そして、 やら、エルサルバドルあたりの商業的なエビ養殖場を視察 自然の循環を利用するという発想が最初っからない。どう る排出口 低くなっている。ところがニカラグアの池は、水を排出す けです。ということは、当然満潮時の水面より池の水面は りの池ですけれども、河口の一番海側に小さなクリークを 以上あるわけです。もしこれをインドネシア的にやるんで う話をした。ニカラグアの場合太平洋岸には自然の川がな てるわけです。それで潮の干満で水の出し入れをしてるわ 掘って、海水を引き込む。そこは川が混じって汽水になっ あれば、これはハジ・アリリドの池、シドアルジョのあた す。私は、こんなものはポンプがあっても駄目だよってい ばいけないから、ポンプを買う金を貸してくれというので 来ない、乾期にやるためには海の水をポンプで上げなけれ 我々に口々に訴えたのは、これではどうしても乾期には出 いんです。だから入り江ですよね。潮の干満が三メートル するに雨期の間だけなんとかそれでエビを作れる。彼らが をして囲い込んでプールを作り、その中にエビを放す。要 の一五〇ヘクタールぐらいの土地をプルドーザーで盛り土 (池の底面)が満潮時の水面の上にあるんですね。

> 工ビだエビだと言ってるわけね。エビが一番なんだって、 でもどう考えても、こんな方法じゃ借金してポンプを買って、それで年二回エビを収獲したとしても、借金返せなくて、そのまま土地を取上げられることに決まってるなと。というのは、インドネシアと根本的に違うのは、まず池が出来上がってくるプロセスですね。農業に適さないマンが出来上がってくるプロセスですね。農業に適さないマンが出来上がってくるプロセスですね。農業に適さないマンが出来上がってくるプロセスですね。農業に適さないマンが出来上がってくるプロセスですね。農業に適さないマンが出来上がってくるプロセスですね。農業に適さないマンが出来上がっている力にです。まず、そうした伝統的な利用形態があって、ミルクフィッシュのかわりにエビか高くなったんでエビに切り換えたという極めて素朴な展開があるわけです。だから一方では、農業を基盤とした農民の生活が成り立っているわけですよ。

て、環境に従ってのりを越えずというね、そういう暮しぶかが、土地だけもらっていきなり作った。当然一回目はたくさん捕れるんですね。土地が肥えてるから。でも二回、三回と繰り返すことは難しい。でも、一回目はわっと収入があった。そのうまみが忘れられなくて、エビをどうしてもやりたいと言う。そうすると、土地や自然の力を利用しもやりたいと言う。そうすると、土地や自然の力を利用しもやりたいと言う。そうすると、土地や自然の力を利用しもやりたいと言う。そうすると、土地や自然の力を利用しまった。

りっていうのがまず基本にないわけですよ。極めて投機的りっていうのがまず基本にないわけですよ。極めて投機的りっていうのがまず基本にないわけですよ。極めて投機的りっていうのがまずを、これで一族上げたいというエビ養殖。だから、これはなるという話をちゃんと聞いたほうがいいということで、なるという話をちゃんと聞いたほうがいいということで、なるという話をちゃんと聞いたほうがいいということで、なるという話をちゃんと聞いたほうがいいということで、なるという話をちゃんと聞いたほうがいいということで、おおさんにニカラグアに行っていただいた。そんな経緯があるわけです。村井さんが一番現地を直接見てらっしゃるあるわけです。村井さんが一番現地を直接見てらっしゃるあるわけです。村井さんが一番現地を直接見てらっしゃるあるわけです。村井さんが一番現地を直接見てらっしゃるから、どんなに駄目な養殖池かっていうのを。

村井 あんまり駄目駄目って言って伝わるのもまずいんですが。ただ、僕は行ってみて少し愕然とした。技術的な細すが。ただ、僕は行ってみて少し愕然とした。技術的な細すが。ただ、僕は行ってみて少し愕然とした。技術的な細すが。ただ、僕は行ってみて少し愕然とした。技術的な細すが。ただ、僕は行ってみて少しった。こういうやり方もあり得るのかなと。でも、案の定やっぱりあれじゃあ水もろくするのかなと。でも、案の定やっぱりあれじゃあ水もろくするのかなと。でも、案の定やっぱりあれている。

えられないような池面積。しかも収穫を見てたら、魚だらけなんですよ。エビの十倍ぐらい魚が入っていて、その魚を全部捨てちゃうわけ。利用の仕方はいろいろあるはずなのにね。ともかくね僕は文化の違いというか、歴史の違いのにね。ともかくね僕は文化の違いというか、歴史の違いじて帰ってきたと思うんですね。ニカラグア全体を細かくして帰ってきたと思うんですね。ニカラグア全体を細かく見てるわけじゃないですけども、基本的に農の文化っていうのが非常に乏しい。

堀田 そうですね。

村井 畑作ってこまめに手入れして、というような文化が はとんどないように感じた。放牧の荒れ地みたいなところ ではりジャワに一度行ってみるのが一番てっとりばやい。 らえないような気がするんですよ。だからこの人たちはや らえないような気がするんですよ。だからこの人たちはや らえないような気がするんですよ。だからこの人たちはや にいう所で、話をとにかく聞こうと、組合の人が集ってく ていう所で、話をとにかく聞こうと、組合の人が集ってく



インドネシアの粗放養殖を見るためにニカラグアからやってきた、パイン(左から1人目)とマルシア(2人目)。一番右にいる人がハジ・アムナン氏

の方がむしろ理解があったんです。

りたくてしょうがない。それで、やっぱり見た方がてっとけたくてしょうがない。それで、ものばり見た方がてっとこしかないっていうんだから。 一刻も早くエビを作かなり深刻に思い詰めてましたから。 生きるところはこ 堀田 現場の人は生活がかかっている。生きるところはこ

は、彼らがインドネシアで見たことをどう伝えているかま

りばやいって言うんでこういうことになった。結果として

たちの反応は非常に良かった。現場にいる人よりインテリスのまんまやったら本当に死んじゃうというような話をしたんです。その時の組合の人たちの反応はあんまり芳しくなかった。つまりあんまり僕が、このまんまじゃ駄目だみなかった。つまりあんまり僕が、このまんまじゃ駄目だみなかった。つまりあんまり僕が、このまんまじゃ駄目だみたがな話をしたら、技術的にどうしたらいいのかっていう、た方がてっとりばやいと言ったんです。ただ都市のインテリ、中米大学のエコロジー研究所で話をしたときに来た人リ、中米大学のエコロジー研究所で話をしたときに来た人り、中米大学のエコロジー研究所で話をしたときに来た人り、中米大学のエコロジー研究所で話をしたときに来た人のまた。

感激してましたね。その時の話の聞き方、「あっ、そうか」感激してましたね。その時の話の聞き方、「あっ、そうか」感激してましたね。その時の話の聞き方、「あっ、そうか」感激してましたね。アムナンは、まず土手を高く作ることとか、五つからの原則をパッと言ったわけ。それで彼らはね非常にでらいの原則をパッと言ったわけ。それで彼らはね非常にがたら、アムナンは、まず土手を高く作ることとか、五つぐらいの原則をパッと言ったわけ。それで彼らはね非常に必然してましたね。その時の話の聞き方、「あっ、そうか」感激してましたね。その時の話の聞き方、「あっ、そうか」

で、池はきれいにしときゃいいって話ですから、藻がわくのニカラグアの人にとって藻なんていうのは想像外のことただ一番決定的なことは藻をわかせるという話です。つまただ一番決定的なことは藻をわかせるという話です。つまただ一番決定的なことは藻をわかせるという話です。つまただ一番決定的なことは藻をわかせるという話です。つまただ一番決定的なことは藻をわかせるというのは想像がのことで、池はきれいにしときゃいいって話ですから、藻がわくで、池はきれいにしときゃいいって話ですから、藻がわくない。

っていうような感じでした。

ガンガンというのと、もっと細かいのと二種類ある。ドの池に行ったら、藻もただ一種類じゃないことが分る。なんていうのはけしからん話に考えてたけど、実際アリリ

堀田 あの苔みたいなやつね。

なったと思うのね。

村井

ああいうところを現場でみたから、僕は相当勉強に

堀田 そうですね。

言うわけですよね、アムナンは。 村井 ニカラグアの人の体験がすぐに生きるとは思わない。 村本の、これは元気づける話で、いったい何年ぐらいけいがその、これは元気づける話で、いったい何年ぐらいるがの これは元気づける話で、いったい何年ぐらいました。

○植民地支配の後遺症

堀田 僕はあの時はじめて中南米に行ったわけですけど、



日本の農村のような 土地利用がされていない。

がなにしろ多いから。

何かな?

をやってるんです。あとは自分の家の周りには井戸もある たまねぎがちょほっとぐらい。これだけ広い土地があって、 んですけども、 うのを見にいったんですが、 的にコロンブス以来の、 ったい 縛になっている。その時、 一へクタールの土地を獲得してるわけです。 イオ大虐殺から始った収奪型粗放農業です。 とうもろこしと綿花しか栽培していない。 ないわけです。だから池の作り方をみてると、 野菜がちょほっと、 スペイン人の植民者以来のインデ チナンデガの町の農業組合とい これがわずか三六世帯で一五 トマトがちょほっと、 しかしそこで それに自縄自

ジアだったら、寸土を惜しむというのがあるでしょ。 綿花畑とか牧畜とか、それとまったく同じ発想ですね。 て広い土地で、粗放的にやるもんだという発想なんですね。 池を何でこんなに広くしたんだろうなと思ったんだけれど のがプランテーションに集約されてしまっている。 農業が民衆の手から取上げられている。 中南米の苛酷さというのは想像を絶しましたね。 彼らの文化的伝統からいえば、農業っていうのは極め という土地がごろごろしている。 ニカラグアの場合は、この土地は 農業技術というも 根本的に 実に エビの 人口 24

P



小農経営が中心のインドネシアの農村風景。農民が豊かに実ったコメの収穫をしている。手前 は田植えを終わったばかりの苗。

村井 そうですね、何か、植民地の入り方の問題がすごくあったと思うんです。多分フィリピンのネグロス島やミンあったと思うんです。多分フィリピンのネグロス島やミンカったプロセスがあると思うんですけど、インドネシアのジャたプロセスがあると思うんですけど、インドネシアのジャカ島やバリ島はそれとはかなりちがう。ジャワももちろんある程度のプランテーションがあるし、砂糖キビなんてのもかなり栽培されてるわけですけど、大プランテーションもかなり栽培されてるわけですけど、大プランテーションもかなり栽培されてるわけですけど、大プランテーションもかなり栽培されてるわけですけど、大プランテーションがあるし、砂糖キビなんてのある程度のプランテーションがあるし、砂糖キビなんでのですがあるし、砂糖・ビスの窓面白かったのは、マルシアさんが、バリで乗ったバスの窓面白かったのは、マルシアさんが、バリで乗ったバスの窓面白かったのは、マルシアさんが、バリで乗ったバスの窓面白かったのは、マルシアさんが、バリで乗ったバスの窓面白かったのは、マルシアさんが、バリで乗った。

ちの食生活を豊かにするような農業をまずやれば、

なんで自分たちの食う作物をまずつくらないのか。

自分た

と。ところが、ニカラグアには、どうやって農を営むかと

いう概念がないんですね。

作物が作れるわけですから。その土地を見て、アジア人だきていけるはずだと思うんですね。その基盤があって商品

ったら一年のうちにこの土地をものすごい畑にしてるな、

村井 それにすごいびっくりしたみたいですよ。つまり庭のすみずみまで、ありとあらゆるものが植わってるという。のすみずみまで、ありとあらゆるものが植わってるという。をそう思いますよ、ニカラグアからすればね、バリやジャもそう思いますよ、ニカラグアからすればね、バリやジャもそう思いますよ。こまり庭のすみずみまで、ありとあらゆるものが植わってるという。

版に育てるっていうモデルを、ニカラグアでうまく発展であっていう観点からいっても、ニカラグアから日本にエビを持っていう観点からいっても、ニカラグアから日本にエビを持っていう観点からいっても、ニカラグアから日本にエビを持っていけるか。その辺の技術交流がとても重要なんだとせきていけるか。その辺の技術交流がとても重要なんだとまっんです。そういう意味では持続型農業のモデル作りということがすごく必要になってくるなという気がするんですね。だから今回インドネシアに行った人が、エビを有機は、だから今回インドネシアに行った人が、エビを有機は、だから今回インドネシアに行った人が、エビを有機は、だから今回インドネシアに行った人が、エビを有機は、だから今回インドネシアに行った人が、エビを有機は、だから今回インドネシアに行った人が、エビを有機は、だから今回インドネシアに行った人が、エビを有機は、だからでする。だから今回インドネシアに行った人が、エビを有機がでする。だから今回インドネシアに行った人が、エビを有機は、対象に対象にないる。

作るかとかね。それから自分が食うための農業をどう

きそうな気がします。 ま業団)のエビの専門家がいて、今回も非常に協力してゆるいれればと思います。今回の場合はJICAと協力してやるいれればと思います。今回の場合はJICAと協力して頂事業団)のエビの専門家がいて、今回も非常に協力して頂工ビについては、ニカラグア駐在のJICA(国際協力工ビについては、ニカラグア駐在のJICA(国際協力

○民衆交易とマーケット

民間でいくらでも稚工ビなんて作っちゃってる。彼らは経あって、あんまり大声では言いにくいところもあるんですあって、あんまり大声では言いにくいところもあるんですったら誰でも何でもやる。JICAはたしかに実験施設として立派な実験をやってるし、いいエビを育てる、いい稚して立派な実験をやってるし、いいエビを育てる、いい稚して立派な実験をやってるし、いいエビを育てる実験施設がある。

験でこうやればこうなるっていうのはよくわかって思いまですからね。JICAがやろうがやるまいが。それでJICAはエビはもうだいたい終わりだと。次に高級魚をやるあいう立派な施設作って、いくらいい実験をやっても、ああいう立派な施設作って、いくらいい実験をやっても、ああいうではない。やってる人は熱心にやっています。から、その人を非難するつもりは全然無いんだけれども、から、その人を非難するつもりは全然無いんだけれども、から、その人を非難するつもりは全然無いんだけれども、から、その人を非難するつもりは全然無いんだけれども、から、その人を非難するつもりは全然無いんだけれども、から、その人を非難するつもりは全然無いんだけれども、

いくんではないかなぁというふうに思ってるんですけどね。的なニーズとは無縁になる。現地の暮らしとの接点が無いがら。まあ理論的な抽象的な援助でしょ。ただ今回ニカラから。まあ理論的な抽象的な援助でしょ。ただ今回ニカラを組んでいけたら、これは非常にユニークな試みになってを組んでいけたら、これは非常にユニークな試みになってを組んでいけたら、これは非常にユニークな試みになってを組んでいけたら、これは非常にユニークな試みになって

る高級魚は、あれは寿司ねたですか。 大野(進行) インドネシアのJICAがやろうとしてい

にできて、かなりの需要はあるようです。ジア中で今ツーリストのための高いレストランがつぎつぎジア中で今ツーリストのための高いレストランですね。ア

んですね。堀田のあれは生きたやつを日本にもってくればすごく高い

まるのでは。 今にインドネシアから日本へ活魚輸送が始

しょうか。不思議ですよね、あれ。村井「JICAは別に高級魚作る必要はないんじゃないで

をもった魚を、高く売る。それでもって高い地代を払うとで手数料収入が増える。それから生きてることで付加価値が扱いませんからね。単価の高い、生きたものを扱うことが扱いませんからね。単価の高い、生きたものを扱うことが扱いませんからね。単価の高い、生きたものを扱うことが扱いませんからね。単価の高い、生きたものを扱うことが表別では、高く売る。それでもって高い地代を払うとで手数料収入が増える。それでもって高い地代を払うとで手数料収入が増える。それでもって高い地代を払うというが、日本の経済的場合である。

いうね。イワシとかサンマとかいくら買ってきたって駄目なわけでしょ。だから何でJICAがそれをやるのかという問題ですよね。誰に頼まれてやってるのかという。専門家として派遣されている人は多分業界の人だから、どうしても業界の側に立った発想が展開されるわけでしょ。だから普通に生きてる民衆、消費者とかね、あるいは農民とかいうところから、JICAのプロジェクトにかかわっていかなければ、本当の意味でのその土地の暮らしを支える援助にはならないと思うんだけど。

大野(進行) その場合のマーケットという概念なんですが、例えばニカラグアで民衆経済の発展とか民衆自立の農業とか漁業とかということを考えた場合、例えばアメリカにオルター・トレード・アメリカというか何かそういうものがないとちょっと絶望的ですね。そういう経済システムそのものの変更がないと、いくらエビだけ伝統エビの技術を入れたって、その先がないなぁという気がします。つまを入れたって、その先がないなぁという気がします。つまを入れたって、その先がないなぁということですが。

ね、エビに猪突猛進できるんだろうかと。いう問題ですよ。結局インフラがないわけです。それからり問題ですよ。結局インフラがないわけです。それから題なのは、エビを養殖したけど、じゃあ誰が買うのかって

るのかどうか、それは僕はわからないけども。 TJが考えるような方向をもった、市民団体的な動きがあいと思う。だからアメリカのなかにもね、消費者連動でA

でしょう。だいたい生協運動がつぶれていってます。堀田、アメリカの場合、まとまった消費者というのはない

るらしい。ヨーロッパのNGOが直接来て買い付けるんだいうのは非常に乏しい訳だから、市場としてもエビならエいうのは非常に乏しい訳だから、市場としてもエビならエビで、もういっしょくたにエビだっていう。だからアメリビで、もういっしょくたにエビだっていう。だからアメリビで、もういっしょくたにエビだっていう。だからアメリーなんか、オルター・トレード的にやってるところがあり、お産関係でいうとやっぱりアメリカはお魚文化って村井 水産関係でいうとやっぱりアメリカはお魚文化って村井 水産関係でいうとやっぱりアメリカはお魚文化って

トレードっていうのはかなり商業化してるんですか。とこに売れないという話がある。ヨーロッパのオルター・けれど、無茶苦茶に品質管理がうるさくて、とてもあんなけれど、無茶苦茶に品質管理がうるさくて、とてもあんな

堀田 というよりも、一般市場に対して売っているという力のある商品というか、つまり買手の側の論理がどうして力のある商品というか、つまり買手の側の論理がどうして力のある商品というか、つまり買手の側の論理がどうしてドで適正なお金を払ったとしても、資本も技術も経験もない人たちを、直接ヨーロッパ市場で戦わせるような商品作い人たちを、直接ヨーロッパ市場で戦わせるような商品作りをある意味で押しつけているわけですよね。だから、農民の方が支えきれないですよ。本当なら、第三世界農民の民の方が支えきれないですよ。本当なら、第三世界農民の民の方が立まる考え方の発展段階に合せたマーケット作りっていうのが必要なはずです。日本の場合はやっぱり非常にでるから、とにかくある一定のレベルまで一生懸命持ち上てるから、とにかくある一定のレベルまで一生懸命持ち上げていくという努力が出来るし、待てるわけです。

村井なるほどね。

なってしまうわけですよ。でつてしまうわけですよ。とってしまうわけですよ。ところに行って、上手に技術的にあったものを買ってきたら一番いいんじゃないのという話になったら、そんな難しい話はないんでね。それだったら、堀田 それを、いきなり一般市場に出せますかということ

ないっていうことですね。 村井 民衆交易もそこまできちっと組み立てなければいけ

○民衆交易の新たな可能性

堀田 いかにして消費者に納得してもらうかっていうのは、とりあえずは品質のレベルではなくて、一緒に作っていくという決意をしてもらえるかどうかということだと思うんです。それとさっき村井さんが言ってた文化の問題ですね。商品だけじゃなくて、粗放エビを作っている人間と、その人間を支えている文化みたいなものをどう評価できるのかっていうところがありますね。

村井 それはすごい難しい問題ですよね。つまり、交易っていうのはどこの地域でも普遍的に成り立つもんじゃない。だからラテンアメリカをアジア的に改造しようなんていうことをやったら、失礼な話です。かといって、もし取り引きしたり、商品を買う以上は、こちらのニーズをある程度むこうは考慮しなければならない。その場合こちらのニーズというのはアジア的農業の基盤の上にあるとしたら、相手の側もそういうものを学んで、それをよしとすればそれを受け入れればいいわけです。そういう意味で民衆交流というのは、多国箱企業やアグリビジネスが安いところとならどこでもやればいい、土地はどこにでもあるんだというらどこでもやればいい、土地はどこにでもあるんだというらどこでもやればいい、土地はどこにでもあるんだというのか、土地土地に合せた取引関係を積み上げていく努力があって、生産者も消費者もその中で変っていくような力があって、生産者も消費者もその中で変っていくような

堀田、ええ、そうでしょうね。

つきあい方にならないと、将来的には駄目でしょうね。

村井

それとね、僕は、日本のものをアジアに持って行く

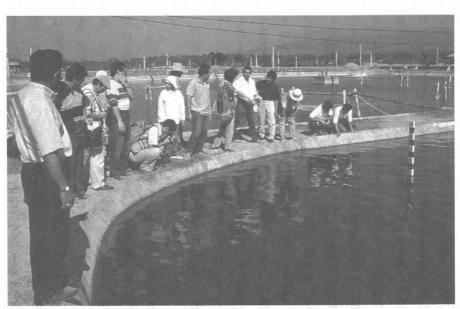
っていう発想も、考えたほうがいいと思っているんです。

堀田 日本のものっていうのは?

買いたい人がいればっていうね、そういう発想もオルタリンゴ食いたいとか梨食いたいとかっていう。交易は一方的であってはいけないわけですから、ただ農産物買えばいけるいたいとか梨食いたいとかっていう。交易は一方

大野(進行) それとの関連でいうとね、最近考えてるのは、例えば日本の農民が作っているものと、ネグロスの農は、例えば日本の農民が作っているものと、ネグロスの農は、例えば日本の農民が作ったいうところで考えたわけだけれかに日本の市場で売るかというところで考えたわけだけれども、日本の農民の作ったものと複合させて、そしてひとども、日本の農民の作ったものと複合させて、そしてひとども、日本の農民が作ったものと複合させて、そしてひとが高品を作り上げるみたいなね。そういうかたちで商品開発をしていくと、地域と地域が結びつくわけですね。それからひとつの商品のなかに、両方の民衆の・・・・。

ー・トレードの将来に必要だというふうに思う。



集約型エビ養殖池を視察する旅の一行。インドネシア語、スペイン語、日本語、英語が飛びかう。 南と南の民衆同士が出会い、話し合い、お互いの文化を確認してゆく。

P P 21

(注6)とか、

いろいろな国際交流とか、それらの

らいろんな企画に関しては、たとえばRUA

まず、企業としての基盤を丈夫にするという問題。それか

きないという現実があるわけです。

だからATJとしては、

民衆交易を継続で

それから今おっし

力ですね。これをきちっと持たないと、ゃったような意味で商品を企画する力。

みがなされていくかっていうこと。

ネットワークの中でどれだけクリエイティブな交わりや試

僕は自分自身の基本的な役割としては、ATJが一定の 財政的、事業的な基盤を作り上げないといろんなものが花 財政的、事業的な基盤を作り上げないといろんなものが花 財政の冷凍工場がないと出来ないという場合は特にそうで す。たとえば、インドのケララ州では、漁民組合が手漕ぎ す。たとえば、インドのケララ州では、漁民組合が手漕ぎ す。たとえば、インドのケララ州では、漁民組合が手漕ぎ す。たとえば、インドのケララ州では、漁民組合が手漕ぎ ないといるんなものが花

作るかという点です。思ってるのは、ATJが物理的な機能としての力量をどうね。ATJとして今とてもこれからの課題になるだろうと堀田 思いがはいってくるからね。それは大変面白いです

(注5) とか

逆にいうと農民漁民が生産物を直接彼らの国内的、あるい手を経ないと流通できないという仕組があるわけでしょう。

づくりがかなり大事になってくるなぁというふうに思いまま、別に我々が直接輸入しなくても重要なことになってくる。つまり、我々に金融サービス力がつくだけで、非常には国際的な市場に持っていける力を作っていくということは国際的な市場に持っていける力を作っていくということがにいうと農民漁民が生産物を直接彼らの国内的、あるい逆にいうと農民漁民が生産物を直接彼らの国内的、あるい

村井さんがさっき、それぞれの土地土地のものがあるということで南南交流のひとつの原則をいわれてましたが、ものを通してっていうことになってくると、それこそ浸食するされるという関係がでてくると思うんです。今回のニカラグア人のインドネシア行きの大きなボイントは、人が見聞して歩くということですよね。見聞交流っていうことをもっと、南と南、南と北の間でやった方がいいと思う。今まで交流っていうと、優れた技術者を北から南へ連れてって技術移転するとか、南の人を連れてきて北の優れた技がを見てもらうとか、そんなふうにばっかり考えてたんだけど、もっと生活に密着したところで南南交流していく。けど、もっと生活に密着したところで南南交流していくしかもその見聞をすぐ広められるような立場にいる人たちけど、もっと生活に密着したところで南南交流していく。

を連れてきてね。

か、そういう幅広い見聞がすごく大事ですね。の現場なり、あるいは鍛治屋とか、そんな工業的なものと村井 それとね、今度はエビ関連しか見てないけど、農業

てという発想は···・。 でという発想は・・・・。 でという発想は・・・・。 でという発想は・・・・・。 でといいますか。例えば今回もビデオ撮ってると思いますけ といいますか。例えば今回もビデオ撮ってると思いますけ といいますか。例えば今回もビデオ撮ってると思いますけ

村井 それは駄目。

る人、それから写真を撮れる人、そいういうふうな人たちいうのは非常に重要だろうと思いますね。スケッチを描けいうのは非常に重要だろうと思いますね。スケッチを描けいるのは非常に重要だろうと思います。我々を まず、今生きてる人で暮らしに困ってる人が見聞に 堀田 まず、今生きてる人で暮らしに困ってる人が見聞に

を提起してくれたと思います。 村井 そういう意味では今回の旅は面白いいろいろな問題

(注1) ミルクフィッシュ

として、一三世紀から養殖されてきた。骨が多く、味は淡泊。インドネシアでは貴重なタンパク源でサバヒイ、インドネシア語でバンデンと呼ばれている。福建語中国、東南アジアで広く一般的に食されている魚。福建語

(注2) ハッチェリー

稚エビの生産工場。海で捕獲される天然稚エビの供給が増

る。
て然稚エビは海の汚染などが原因で、近年減少していた。天然稚エビは海の汚染などが原因で、近年減少していた。

(注3) コロンブス五〇〇年

る先住民・黒人・民衆の集い」が一〇月に行われた。 にあたるため、中南米諸国、アメリカ、ヨーロッパでさま でまな記念の催しが行われた。これに対し先住民の暮 コロンブスはそれまでえいえいと営まれてきた先住民の暮 いした。ニカラグアでも「コロンブスの五○○年に抵抗の姿勢を がした。ニカラグアでも「コロンブスの五○○年に抵抗の姿勢を がした。ニカラグアでも「コロンブスの五○○年に抵抗する先住民・黒人・民衆の集い」が一〇月に行われた。

(注4) サンディニスタ時代

をと思いた。
をと思いた。
をと思いた。
をなっと進めた。しかし、対右派ゲリラとの戦闘、米国健医療などそれまでなおざりにされてきた民衆のための施健医療などそれまでなおざりにされてきた民衆のための施による経済封鎖などの影響を受け、八九年の選挙に敗れ政策を次々と進めた。しかし、対右派ゲリラとの戦闘、米国した。

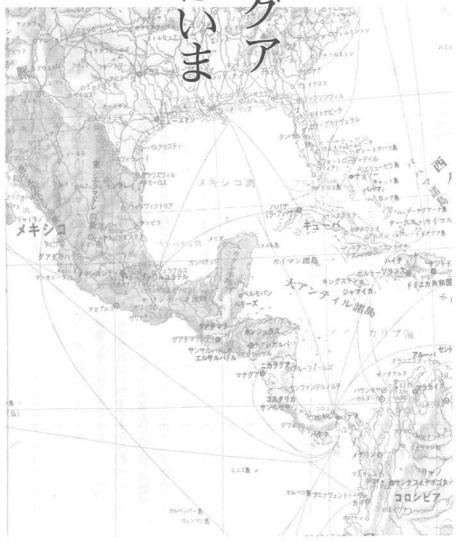
(注5) RUA (むらとまちのオルタ計画)

組みを作ろうとする農民、市民の運動。 たオルタナティブな実践をつなぎ、新しい生産、経済の仕たオルタナティブな実践をつなぎ、新しい生産、経済の仕

(注6) PP21 (ピープルズプランニー世紀)

二一世紀をどんな社会にするのか自分たちで構想しようと、一九八八年にアジア太平洋資料センターが提唱して始まった運動。翌年の夏、海外からの参加者も交えて、北海道から沖縄まで一九の国際会議が行われた。九二年にはタイでら沖縄まで一九の国際会議が行われた。九二年にはタイでらかまり、それぞれの立場から民衆の二一世紀について話し合まり、それぞれの立場から民衆の二一世紀について話し合まり、それぞれの立場から民衆の二一世紀について話し合まり、それぞれの立場から民衆の二一世紀について話し合まり、それぞれの立場から民衆の二一世紀について話し合まり、それぞれの立場から民衆の二一世紀について話し合まり、それぞれの立場から民衆の二十世紀について話し合いました。

民衆は



サンディニスタ の行方

中米の人びとと手をつなぐ会 狐崎知己

リベラリズムの前身!)に対して、農

て傀儡政権を支える米国の支配(ネオ

壊しました。

半を持ち去るうえ、海兵隊を駐留させ一世を持ち去るうえ、海兵隊を駐留させ一世に税関を直接管理して関税収入の大田に税関を直接管理して関税収入の大田に税関を直接管理して関税収入の大田に税関を直接管理して関税収入の

一九世紀半ばに傭兵部隊を率いた米てしまいました。

警備隊の長官ソモサの陰謀で暗殺され設した「非政治的な軍隊」である国家ンディーノは、米国が置土産として創海兵隊の撤退を実現した人物です。サ民を率いて山岳ゲリラ戦を闘いぬき、

国人が大統領に就任し奴隷制を復活させるという屈辱的事件以来、ニカラグせるという屈辱的事件以来、ニカラグ疾の英雄そのものであり、彼らがサン族の英雄そのものであり、彼らがサン族の英雄そたち)を自称することは、大け継ぐ者たち)を自称することは、大け継ぐ者たち)を自称することは、大け継ぐ者たち)を自称することは、大

足飛びに成長した子供たちや、衛生班 足飛びに成長した子供たちや、衛生班 足飛びに成長した子供たちや、衛生班 と飛びに成長した子供たちや、衛生班 と飛びに成長した子供たちや、衛生班 と飛びに成長した子供たちや、衛生班 と飛びに成長した子供たちや、衛生班 と飛びに成長した子供たちや、衛生班

母の と飛びに成長した子供たちや、衛生班 と標明を編成して後衛を支えた七○ や食糧班を編成して後衛を支えた七○ を聞くことができます。自らの手で 直接民主主義を演出したサンディニス タたちは、識字運動や保健衛生キャン タたちは、識字運動や保健衛生キャン

理」を基盤に、混合経済体制、複数政サンディニスタ政権が「多数者の論

れた革命とは大きく異なっていました。ディニスタ革命は、前衛組織に率いら

このような民衆が主体となったサン

は、一九八六年に国際司法裁判所が主 革命勢力)です。米国の介入に対して 央情報局)が作り上げたコントラ の先兵となったのが、CIA 国の輝きを潰しにかかったのです。そ 手段を用いて、面積では日本の三分の 国政府は直接軍事介入を除くあらゆる 理解していたからでしょう。だが、 の多様性に支えられた革命の重要性を 義を基本原則として掲げたのは、 権を放棄してしまいました)。また、 賠償を要求したのですが、チャモロ政 権は三億ドルの援助と引き替えに請求 カラグアに賠償請求権を与えました 権侵害という画期的な判決を下し、 (サンディニスタ政権は一二〇億ドル ほど、人口三〇〇万人に満たない小 (米国中 民衆 (反 0

でニカラグア人の死者は七万人を超えかに汚い戦争であったかが分かります。かに汚い戦争であったかが分かります。

ました。

党制と参加民主主義、

国際的非同盟主

造力が試されています。革命時代に農

コントラの主力はソモサ派の旧軍人で、のちにサンディニスタ政権の経済で、のちにサンディニスタ政権の経済で、のちにサンディニスタ政権の経済で、のちにサンディニスタ政権の重要ポストを占めたディニスタ政権の重要ポストを占めた

りました。このエリートたちは、サンりました。このエリートたちは、サンのち、CIAから高給を得ながらソモのち、CIAから高給を得ながらソモーがに協力してコントラの文民司令部に移り、さらにチャモロ政権の幹部にに移り、さらにチャモロ政権の幹部に

がさらに八五万ヘクタールを獲得しまける農地(全農地の二八%)を直接手にしました。さらにチャモロ政権のネだされる際には、労働者たちが組織的な抵抗運動を続けた末、一万七千人民の四三%が一三三万ヘクタールにの

ると、意式をしです。也の中南米者国を、バナナ、タバコなどの生産・商品を、バナナ、タバコなどの生産・商品な活動を開始しています。女性の参加な活動を開始しています。女性の参加な活動を開始しています。

をの規模はGDPの三二%にも相当して革命の成果を守り通してきたのです。 で革命の成果を守り通してきたのです。 で革命の成果を守り通してきたのです。

サンディニスタの創ます。

ン・コントラ事件に絡んで軒並み米国カラグア政策の責任者たちが、イラ

目を迎える現在、

に苦痛を与えるかが分かるでしょう。

九〇年二月の選挙での敗北から四年

37

今や完全に無用の長物です。四〇年間 行機七〇機、六つの化学肥料合成工場、 クタールに加えて、農薬散布用の軽飛 どは、有機農法技術やマーケティング 自動摘取機一〇〇台などがありますが、 難なケースにあたります。八三〇〇へ とする綿花の自主管理企業は、最も困 闘を続けてこられたチナンデガを中心 でしょう。しかし、弘田さんが悪戦苦 保したコーヒー生産の自主管理企業な 面での支援があれば、見通しは明るい ラル派に所有権が移行してしまいます。 資カットで経済的自滅を図るネオリベ に取りかかることができなければ、 万六千ヘクタールを超える土地を確 融

> はなく、もやは潅漑もできません。 されたものは七〇%の失業者と常に金 の浸透だけでした。設備はあれども水 のなる木を求めるモノカルチャー思考 にわたるすさまじい環境破壊の末、 彼らは高度に分業化された綿花プラ

整政策に対するオルタナティブに早急

つ「潜在力」は莫大なものです。しか

民衆の経済基盤を活用して構造調

このようにサンディニスタたちがも

ません。おまけに、これらの作物は綿 益があがる見通しがでてきた作物は、 花にくらべても雇用が少ないのです。 ソルガムと大豆、ゴマ、落花生にすぎ ん。これまでの多角化努力で何とか利 地帯での作物転換は容易ではありませ ているうえ、太平洋沿岸部の熱帯乾燥 ンテーションや処理工場での労働のた め「精神のモノカルチャー」に侵され

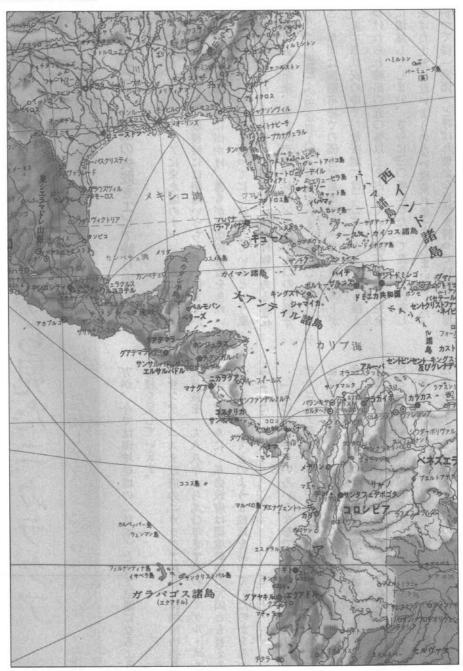
> 必要とされている時はありません。 ってきた自立経済を作るための経験が Jがフィリピン・ネグロス島などで行 が生産手段を守っている今ほど、AT しているのでしょう。サンディニスタ

政治動向にも確実に反映されていくで 自決と自主管理運動の行方は、今後の を主張し続けるサンディニスタたちの 換してゆくなかで、あくまで「革命」 たちが構造調整を受け入れ企業家に転 前です。フレンテ幹部=革命エリート 策への対応をめぐる内部対立で崩壊寸 ことになったフレンテも、構造調整政 が、今年はじめに最終的に崩壊する らなる反サンディニスタ連合「ウノ」 チャモロ政権を誕生させた一四党か 実質的にチャモロ政権に参加する

稼げる輸出商品を見つけなくては」と るには、綿花に代わって大量の外貨を

一生産に必要な原料や機材を輸入す

いう思考が、当時での集約エビに直結



ニカラグアを中心とした中南米の地図

九九三年エビから見たニカラグア

弘田しずえ(メルセス会シスター/メキシコ在住)

綿からエビへ 「綿の失敗をエビで繰り返すな」

一九八九年に二カラグアに来た頃のチナンデガは見渡す で壊滅してしまい、さらに三〇年にわたって農薬を散布しに壊滅してしまい、さらに三〇年にわたって農薬を散布した壊滅してしまい、さらに三〇年にわたって農薬を散布した壊滅してしまい、さらに三〇年にわたって農薬を散布した壊滅してしまい、さらに三〇年にわたって農薬を散布した壊滅してしまい、さらに三〇年にわたって農薬を散布した壊滅してしまい、さらに三〇年にわたって農薬を散布した壊滅してしまい、さらに三〇年にわたって農薬を散布した壊滅してしまい、さらに三〇年にわたって農薬を散布した壊滅してしまい、さらに三〇年にわたって農薬を散布した壊滅してしまい、さらに三〇年にわたって農薬を散布した壊滅してしまい、さらに三〇年にわたって農薬を散布した壊滅してしまい、さらに三〇年にわたって農薬を散布した場が、

有様を呈しています。 方が、今では環境破壊の「見本」として話題になるような

サンディニスタ政府のニカラグア綿花・採油植物委員会

みました。

本生産に対してどのような政策を持っていたのかを尋ねて、
・ビヒルに、革命政府は環境破壊の元凶とも言える綿変員長を一九八八年から九○年まで勤めたミゲル・エルネ

たからです。もっとも九○年の選挙の敗北で計画は中断されの生涯を通して綿に関わったことを心から悔やんでいます。綿花産業はニカラグアの環境と経済をズタズタにしてす。綿花産業はニカラグアの環境と経済をズタズタにしてす。綿花産業はニカラグアの環境と経済をズタズタにしてける大豆とかヒマワリ生産に切り替える必要を感じていたからです。もっとも九○年の選挙の敗北で計画は中断されたからです。もっとも九○年の選挙の敗北で計画は中断されたからです。もっとも九○年の選挙の敗北で計画は中断されたが、第花産業に関わり、サン「六○年代からいろいろな形で綿花産業に関わり、サン「六○年代からいろいろな形で綿花産業に関わり、サンドルの大きです。

かつては「楽園」と呼ばれ豊かな自然を誇っていたこの地続けた土地は救いようのない程荒れ果ててしまいました。

れてしまいましたが・・・・。

生産する物は時代によってタバコであったり、カカオ、イ るまで引きずっている事実をまずおさえる必要があります。 工された物を輸入するという依存的な経済構造を今にい の国の経済がスペイン時代から輸出向け原料を生産し、加 働力と豊かな自然資源を、ただただ儲けることを目的に意 主に米国資本と国内のブルジョア階級が手を組んで安い労 九世紀末からは金、木材が注目されるようになりましたが、 ンディゴ、チーズ、あるいは牛肉、コーヒーと変わり、一 ニカラグアにおける綿花生産の歴史を理解するには、こ 綿ブームに踊りました。当時は農薬の害について知識もな 太平洋側の北から南までの森林を猛烈な勢いで破壊しなが デガはもちろん、マナグア、リバス、グラナダ、セバコと 勃発し、米国が綿を大量に必要とするようになったのがニ には綿花が含まれていません。その後間もなく朝鮮戦争が やって来て経済政策について提案を行ないましたが、これ 五一年に世界銀行の経済ミッションが初めてニカラグアに のままにするというパターンは変わりませんでした。一九 カラグアにおける綿花生産の始まりです。レオン、チナン 六〇、七〇年代ソモサ軍事独裁政権下のニカラグアは た

づく思います。ニカラグアは中米諸国の中で最後に綿花生実際は七九年に思い切ってストップするべきだったとつく雇用の機会を多く与えるということに原因していますが、雇用の機会を多く与えるということに原因していますが、が及ぼされても、綿栽培が続けられました。サンディニスが及ぼされても、綿栽培が続けられました。サンディニスく、山から樹木が消え、土壌が破壊され、人体にも悪影響く、山から樹木が消え、土壌が破壊され、人体にも悪影響

産を止めた国です。

チャモロ政府は経済政策の中に綿花生産二○万へクター 無によって失敗したのだと説明していますが、環境問題も 業も少ないのですが、生産コストはますます上がり、誰も 業も少ないのですが、生産コストはますます上がり、誰も は見向きもしなくなりました。綿花・採油植物委員会 は有名無実になっているようです。

ないように心から願っています。」活も省みなかった綿花生産の失敗をエビで繰り返すことのうですが、金儲けの鬼となって自然資源、環境、人間の生っている連中が、「これだ」と飛び付いているのがエビのよねの代わりに何をやるかということで鵜の目鷹の目にな

ニカラグアは一九七九年に五〇年近く続いたソモサ軍事ニカラグアは一九七九年に五〇年近く続いたソモサ軍事ニカラグアは一九七九年に五〇年近後終い関して革命政府を樹立して、土地なし農業労働者に土地を与え、無償の教育、医療制度を確立しましたが、間もなくレーガン政権がテコ入れする反革命戦争(コントラ戦争)が始まり、戦争、経済封鎖の締め上げで、ついに一九九〇年総選挙に敗れチャモロ政権が誕生しました。

たちに対する政府の公約が一向に履行されないため、各地 で、政党基盤を持たないチャモロとの関係は最初からし っくり行かず、とくに副大統領、マナグア市長、前国民議 のくり行かず、とくに副大統領、マナグア市長、前国民議 のはサンディニスタ寄りと激しく非難しています。一方、 可ントラ戦争は終結したものの、武装解除した元コントラ 兵士と、四分の一に縮小したサンディニスタ人民軍の兵士 たちに対する政府の公約が一向に履行されないため、各地

民営化が取りざたされています。いずれにしても民営化で 公表されず、同時に電信電話局、エネルギー省、水道局の 持ち主は誰なのか、売却金はどうなったのかなどについて 投資家に売却あるいは貸与されたものがいくつあるのか、 元の所有主に返還されたもの、労働者に譲渡されたもの、 業の民営化は一二月に終了と政府は発表していますが、こ 軟性を欠く経済の構造調整政策を導入し、自由化、民営化 二%に増え、現在耕作地の二一%が大、中地主の所有に戻 四万人が失業し、国軍の縮小、コントラ軍解体による失業 の内容は明らかにされていません。つまり、ソモサ時代の の波が突如として襲いかかって来ました。三五〇の国営産 り、さらに二〇万ヘクタールの返還要求が出されています。 のです。個人土地所有はサンディニスタ時代の一%から一 に追い出すというような場面もみられるようになってきた めき立てる、わめき立てるだけではなく実力行使で暴力的 家主がゴマンと押し寄せ、それぞれ家返せ、土地返せとわ ニスタ政府によって土地や住宅などを没収された元地主や で再武装した「レコントラ」(再びコントラ)や「レコンパ」 (再び同志) が蜂起する状況が続きました。さらにサンディ 政治的には分裂、対立、両極化する中で、政府は全く柔



ニカラグアのエビ養殖池。

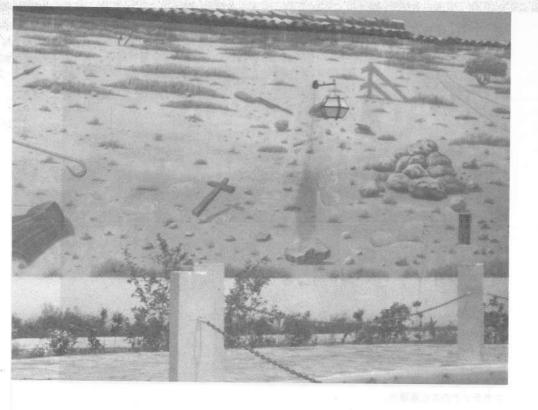
はもちろんのこと、マイノリティの中産階級さえもエルサがまさにパンク状態であることは、大部分の貧しい人びと

ルバドルやホンジュラスに出稼ぎに行っている事実からも

想像できます。

も含めて六五%の失業率、自由化で市場には輸入品が溢れ、

国産品が致命的な痛手を被っていることで、この国の経済



諸しています。サンディニスタ政権時代に比べ、戦争も経済封鎖もなく、民間部門を強化する市場開放が促進され、済封鎖もなく、民間部門を強化する市場開放が促進され、済封鎖もなく、民間部門を強化する市場開放が促進され、済対鎖もなく、民間部門を強化する市場開放が促進され、野島平介ナス成長となっている現状は、チャモロ政府の構造調整政策が無残に失敗したことを如実に示している。民間部門強化という旗印も実際は国内産業の保護よりも外国企業のために有利であり、インフレ抑制も経済活動の結果というよりも援助に依存した結果であること、このようなというよりも援助に依存した結果であること、このようなというよりも援助に依存した結果であること、このようなというよりも援助に依存した結果であること、このようなというよりも援助に依存した結果であること、このようなというよりも援助に依存した結果であること、このようなというよりも援助に依存した結果であること、このようなというよりも援助に依存した結果であること、このようなというよりも援助に依存した結果であること、このようなというよりも関いる。

AIDのエビ養殖専門家の話しを聞くというのがありまして、企業関係者が参加してホンジュラスから来たUS/で「エビ養殖経済セミナー」なるものが開催され、政府、政府、で「エビ養殖経済セミナー」なるものが開催され、政府、

税で危機的状況を切り抜けようとしています。



た。とにかく綿花産業が左前になってからというもの、こ 費国である米国と日本は世界の五〇カ国から五七億ポンド、 万へクタールのうち、わずか九〇〇へクタール(プエル く持つのはパナマとニカラグアで、とくにニカラグアは四 貨を獲得した。中米諸国の中でエビ養殖に適した土地を多 九一年度の生産高は一万四〇〇トン、五四〇〇万ドルの外 タールあるが、このうち利用されているのは一二%。一九 の話も「中米にはエビ養殖に適している土地が一二万ヘク エビは儲かるという一点に集中しているようです。この日 の種のセミナーがやたらに増えているのですが、いずれも 資を始めている」という調子でした。プエルト・モラサン ト・モラサン)を利用しているに過ぎない。最大のエビ消 す。まさに「捕らぬ狸の何とやら」ですが、絶望的な経済 目には三億ドルの売り上げを目指すという張り切りようで クタールにエビ池を作り年間二億六〇〇〇万ドル、一〇年 だ」と叫んでいる人たちは、五年で負債を返還し、三万へ のマングローブ地帯に集約型のエビ養殖池を造成するには にかかわっている会社が八四社あり、さらに一〇〇社が投 八二億ドルのエビを毎年輸入している。中米にはエビ産業 一ヘクタールあたり一万四〇〇〇ドルが必要ですが、「エビ

す。当にこの国の救いとなるのか。答えは簡単ではないようで当にこの国の救いとなるのか。答えは簡単ではないようでビやりましょう。エビが未来です……」という叫びが、本危機に直面するニカラグアに響く「サー、エビですよ。エ

エビ戦争

本学院の場所を作る計画を着々と進め、エビに が外のポネロヤに実験所を作る計画を着々と進め、エビに が外のポネロヤに実験所を作る計画を着々と進め、エビに が外のポネロヤに実験所を作る計画を着々と進め、エビに が外のポネロヤに実験所を作る計画を着々と進め、エビに が外のポネロヤに実験所を作る計画を着々と進め、エビに が外のポネロヤに実験所を作る計画を着々と進め、エビが目玉 といの養殖池で協力し、農牧省は負けるものかとレオン市 が外のポネロヤに実験所を作る計画を着々と進め、エビに が外のポネロヤに実験所を作る計画を着々と進め、エビに が外のポネロヤに実験所を作る計画を着々と進め、エビに が外のポネロヤに実験所を作る計画を着々と進め、エビに が外のポネロヤに実験所を作る計画を着々と進め、エビに が外のポネロヤに実験所を作る計画を着々と進め、エビに が外のポネロヤに実験所を作る計画を着々と進め、エビに が外のポネロヤに実験所を作る計画を着々と進め、エビに が外のポネロヤに実験所を作る計画を着々と進め、エビに が外のポネロヤに実験所を作る計画を着々と進め、エビに

いう状況になっています。関わるお互い同志が凌ぎを削り連絡も調整もなしに動くと

人の名義で稚工ビ集積所が五カ所もあるが、いずれもホン エビの密漁、乱売が行なわれ、チナンデガにはニカラグア 限に乱発しているらしい。とくにホンジュラス人による稚 の捕獲、養殖などに関する許可を経済開発省の個人が無制 可を出すべきなのに天然資源庁は全く疎外され、天然資源 ビ養殖池造成の全体計画を作り、この計画に準じて造成許 江マングローブ地帯を調査し、資源保護の基準に従ってエ し四社がすでに操業を始めていますが、エビ産業に関する 令が完全に無視されている。天然資源庁はフォンセカ湾入 関して、一応責任分担が決まってはいるのですが、この法 で経済開発省と天然資源庁に吸収される水産庁の再編成に が全く明らかにされていないのが問題で、二月に出た法令 政府の政策が存在せず、エビに関する法的処置の責任母体 が与えられているという話です。民間企業は一三社が進出 組合に、五二六八ヘクタールが民間企業に養殖池造成許可 域があるのですが、現在このうちの三五〇〇ヘクタールが クタールのエビ養殖に適しているとされるマングローブ地 プエルト・モラサンにはFAOの調査によると約三万へ

はニカラグア産です。ホンジュラスで売買される年間一二億尾の稚エビの七〇%ジュラス人、エルサルバドール人が経営しているという。

エビ・オルタナティブ・民衆

カ月二八日チナンデガ市で「チナンデガ州天然資源保護 大月二八日チナンデガ市で「チナンデガ州天然資源保護 大・チナンデガ・ポトシ市長(プエルト・モラサンを管轄 は、が呼びかけ、経済開発省、警察、海軍、組合、コリン は、カ月二八日チナンデガ市で「チナンデガ州天然資源保護

うことは新しい革命を意味する」となかなかの張りきりようことは新しい革命を意味する」となかなかの張りきりようことは新しい革命を意味する。となかなかの張りきりより、まさに国の主権に関わる問題であり、このような構造は、まさに国の主権に関わる問題であり、このような構造は、まさに国の主権に関わる問題であり、このような構造は、まさに国の主権に関わる問題であり、このような構造をが、対して、エビを始めとする天然資源保証が、対して、エビを始めとする天然資源保証の、エビが対して、エビを始めとする天然資源保証の、エビが対して、エビを始めとする天然資源保証の、エビが対して、エビを始めとする。

委員会の緊急行動は

うです。

ためのパトロールで漁・密輸(稚エビ・オイスターなど)を防止する

源開発に関する許可、認可の正常化を図ること二、経済開発省、天然資源庁の責任範囲を明らかにし資

三、広報・教育活動

四

技術者の養成

六、天然資源保護を基準とする持続的開発のための年間五、エビ産業に関連する入国管理、取締の強化

になっていますが、表面では良い顔をしながら、どこまでこの計画を実現するための予算は経済開発省が出すこと行動計画の作成にとりかかること

とムンギアさんは苦笑しています。後生大事に抱えていますが、実は中身は空っぽなんですよ」責任ある取り組みをするか?「天然資源庁は預かった鞄を

プエルト・モラサンでは経済開発省、農牧省、天然資源 に真剣に取り組むためには、それぞれが勝手にマングロー に真剣に取り組むためには、それぞれが勝手にマングロー で切り倒し、大型機械を入れて池を造っている現状にス ナップをかけ、モラサンの未来のために総合的な持続性の ある開発計画を担う主体となるべき漁民の仲間たちをサポートする必要があります。

るはず」という信念で漁民の人たちと池回りをしながら、済的状況の全体を考慮して、環境的に無理のない養殖方法を普及する必要があります。モラサンの池主の主流である組合の役割は重大で、組合が環境的に負の少ない粗放方式にしっかり取り組めば、ニカラグアにおけるエビ養殖の方にしっかり取り組めば、ニカラグアにおけるエビ養殖の方にしっかり取り組めば、ニカラグアにおけるエビ養殖の方はが定まり、将来性のあるエビ養殖組合の人たちに技術指導プエルト・モラサンのエビ養殖組合の人たちに技術指導

養殖法の利点を懸命にインプットしています。自然に優しく自然を利用したコストのかからない粗放型の

一〇月一三日プエルト・モラサンで昨年日本でも公演旅行をした音楽一家ガロ・ファミリーのコンサートが開かれました。インドネシアへ行ったパインとマルシアの報告とました。インドネシアへ行ったパインとマルシアの報告とがなど楽器一式を二台の車に積み込み、信じ難い泥道を悪いなど楽器一式を二台の車に積み込み、信じ難い泥道を悪いなど楽器一式を二台の車に積み込み、信じ難い泥道を悪いなど楽器一式を一方の車に積み込み、信じ難い泥道を悪いなど楽器一式を一方の上で歌、踊りのプログラムが賑やかに繰り広げられ、モラサンでは滅多に見られない本格的コンサートに学校も休みになって皆大浮かれ・・・・。台湾の技術者、経済開発省天然資源部、農牧省の米人顧問、そしてモラサンの漁民、山ほどの子供たちが、皆ガロ・ファミリーの「生命と希望のコンサート」のメッセージに耳を傾けました。

の上で踏みだされたのではないでしょうか。一歩が、ニカラグア〜日本〜インドネシアをエビで繋ぐ線ニカラグア・エビ戦争で民衆が勝利するための大切な第

ニカラグア国内総生産内訳 (1988~1992年)

単位:100万コルドバ(1980年)

	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年
国内総生産	18,473	18,159	18,113	18,069	18,134
第一次産業	4,109	4,486	4,478	4,304	4,430
農業	2,657	2,902	2,887	2,742	2,727
牧 畜	1,348	1,469	1,491	1,438	1,565
漁業	56	66	50	72	86
その他	48	50	51	51	52
第二次産業	4,959	4,816	4,667	4,866	4,702
第三次産業	9,406	8,858	8,968	8,901	9,001

出所: Banco Central de Nicaragua, Indicadores de Actividad Economica a Noviembre 1993 インフレが激しいため1980年の通貨価値で換算している

エビ輸出額

単位:1,000ドル

	エビ	ロブスター	総輸出額に 占める割合
1989年	5,112	6,709	70 70 3
1990年	5,002	4,831	30. 3
1991年	6,052	9,949	5.9%
1992年	4,643	16,450	9.7%
1993年*	8,692	15,599	10.1%

₩11月までの暫定値

出所: Banco Central de Nicaragua, Indicadores de Actividad Economica a Noviembre 1993

マルシアとパインのニカラグア

○行商をしていた少女時代―マルシア

私はチナンデガで生まれました。私が五才の時に母親が なという仕事をしていました。チナンデガの市場で野菜を るという仕事をしていました。チナンデガの市場で野菜を で育ち、エビとかカニを首都のマナグアに持って行って売るという仕事をしていました。チナンデガの市場で野菜を 売る仕事もしていました。隣国のエルサルバドルに干し魚 を売りに行っていた時期もあります。小舟を一そう手に入 を売りに行っていた時期もあります。小舟を一そう手に入 を売りに行っていた時期もあります。小舟を一そう手に入 を売りに行っていた時期もあります。小舟を一そう手に入 を売りに行っていた時期もあります。小舟を一そう手に入 を売りに行っていた時期もあります。小舟を一そう手に入 を売りに行っていた時期もあります。小舟を一そう手に入 を売りに行っていた時期もあります。小舟を一そう手に入 を売りに行っていた時期もあります。小舟を一そう手に入 を売りに行っていた時期もあります。小舟を一そう手に入

ホ、そしてコリントという港のあるところ、遠いところでプエルト・モラサンから三〇キロ程のところや、エルビエ 私は、八才の時から行商をしていました。トナラという

行くこともしばしばありました。

「おっという生活でした。学校に行っている時は、ので、その後店じまいをしてから学校に行っていました。朝六時ぐらいから売り始めて二時に母親のいはモラサンからは七〇キロぐらい離れたところまで一人ではモラサンからは七〇キロぐらい離れたところまで一人ではモラサンからは七〇キロぐらい離れたところまで一人で

をかりかりに揚げたものとか。とれも、小学校三年まででその後は行っていません。デオロンっていうキャッサバと豚の皮切った揚げバナナとかを売って歩いていました。いろんなものを作りました。ビゴロンっていうキャッサバと豚の皮ものを作りました。ビゴロンっていません。学をかりかりに揚げたものとか。

って結婚しました。結婚した後も母親といっしょに住んで一五才になって私は、エルサルバドル人の青年と知り合

いました。そのうち長男が生まれて、夫はエルサルバドルへ行ってしまいました。七八年になるとソモサに対する武装闘争の最終的段階で、プエルト・モラサンは戦争で誰もいかないのでホンジュラスに行きました。それで違う人と一緒になって子供が三人生まれたんですが、三年で別れました。 した。

があるんですけれども、プエルト・モラサンの責任者を務加して党員になりました。サンディニスタには女性の組織一九七九年のサンディニスタ革命で、積極的に戦いに参

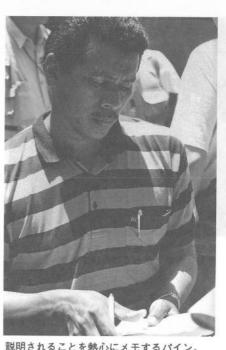


市場で魚介類を見て歩くマルシア。 手前は市場で売っていたロブスター。

めました。コントラ戦争のころは市民防衛委員会というのめました。コントラ戦争のころは市民防衛委員会というのめました。コントラ戦争のころは市民防衛委員会というのめました。コントラ戦争のころは市民防衛委員会というのめました。コントラ戦争のころは市民防衛委員会というのめました。コントラ戦争のころは市民防衛委員会というのめました。コントラ戦争のころは市民防衛委員会というのめました。コントラ戦争のころは市民防衛委員会というのめました。コントラ戦争のころは市民防衛委員会というのめました。コントラ戦争のころは市民防衛委員会というのめました。コントラ戦争のころは市民防衛委員会というのめました。コントラ戦争のころは市民防衛委員会というの

教師をしながら民衆大学で学んだ―パイン

私は一九四七年にベフコという村で生まれました。私が、従兄、皆一緒に七才まで育ちました。二〇人ぐらいのん、従兄、皆一緒に七才まで育ちました。二〇人ぐらいのん、従兄、皆一緒に七才まで育ちました。二〇人ぐらいの



に教師の資格を取りました。資格を取ってから国境近くの いて、母親や親戚や友達に助けてもらいながら一九六八年

綿畑に行ったり畑に行ったりして手伝って小遣いを稼いで 歩いていました。土曜日曜は靴磨きをして、休みになると

いました。五年生になると畑に行くのも大変なので、エル

親を助けたり自分の服を買ったりしていました。自分の貯 ビエホの大きな綿の集積所で、休んだ人の代わりにシフト 金箱を作ってお金を貯めて学用品を買い、小学校を卒業し に入って働いていました。そうやって綿の工場で働いて母

て五年間師範学校に行きました。休みになると綿工場で働 小学校を卒業したあとは、叔父のつてで奨学金をもらっ

> ビエホに今住んでいる家を建てました。 洋裁もできたので、二人でとにかく一生懸命働いて、エル 分も手伝って師範学校を卒業し、教師の資格も取りました。 あいは学校を六年までしかいっていなかったのですが、自 きながら、休みは豚を飼って売ったりしていました。つれ て、体が弱かったので死んでしまいました。教師として働 ました。一一年間校長も務めました。五人の子供がいたん すごく貧しい村で教師として働き始めて、二年目に結婚し ですが二人亡くしました。一人は生まれてからしばらくし

れていました。 いました。生徒は四〇〇〇人、村単位、地域単位で組織さ の技術者、七〇人のプロモーター、四〇〇人の人民教師が 地域の教育省の成人教育係になりました。自分の下に八人 教職を退き成人教育係になりました。その後エルビエホの 識字教育をする教師を教育する仕事をしました。八三年に にニカラグア全土が解放され識字キャンペーンが始まり、 って行って組織化をする仕事をしていました。一九七九年 サンディニスタ民族解放戦線が村を解放すると、村に入 八三年から別の学校の教師になったんですが、そのころはコントラ戦争がきびしく、インフレで教師は低賃金だったので、午前中校長をして午後からは別の中学の先生をしていました。その後いろいろと考えて勉強もしたくなり、民衆大学というところで土曜日は学びました。五年間そう民衆大学というところで土曜日は学びました。五年間必死ですが卒業した時は二三人に減っていました。五年間必死ですが卒業した時は二三人に減っていました。五年間必死に勉強してやっと卒業し、これからどうしようかと考えていたときにカミロ・オルテガ・エビ養殖組合を作らないかと友達が招いてくれたんで教師の仕事を辞めて、組合に参と友達が招いてくれたんで教師の仕事を辞めて、組合に参いたときにしました。

○女の手でエビ養殖組合を―マルシア

イニスタの民族革命はすごくいろんな国際連帯をもってい庭の生活というのは収入が少なく大変なんですね。サンデていますが、その中でも女性の生活がひどい。特に母子家プエルト・モラサンの人たちは皆漁民で貧しい生活をし

たので、一九八六年にイギリスの女性がプエルト・モラサンにも来ました。そのころは既にエビの養殖が始まりかけつ、で、立ってるの人ですが、どうして母子家庭など生活の大変な女性たちがエビ養殖の組合に入れないんだってその大変な女性たちがエビ養殖の組合に入れないんだってその大変な女性たちがエビ養殖の組合に入れないんだってその大変な女性たちがエビ養殖の組合は二人だけ入れてくたがないとか言われました。一つの組合は二人だけ入れてくれて、もう一つは四人だけ入れてくれました。ただそのとれて、もう一つは四人だけ入れてくれました。ただそのとれて、もう一つは四人だけ入れてくれました。ただそのとれて、もう一つは四人だけ入れてくれました。だけど組合の人と話したら、今まで女がエビ養殖れて、もう一つは四人だけ入れてくれました。ただそのとれて、もう一つは四人だけ入れてくれました。ただそのとれて、もう一つは四人だけ入れてくれました。ただそのとれて、もう一つは四人だけ入れてくれました。ただそのとれて、もう一つは四人だけ入れてくれました。

殺された女医さんの名前です。のゲリラになって、ソモサの軍隊に捕まってレイプされてのゲリラになって、ソモサの軍隊に捕まってレイプされて

出されてしまいました。カルロス・フォンセカ組合といういて相当きれいにしたところへ水産庁がやってきて、追いマングローブを切って池を作り始めましたが、一五日間働

ところが、自分たちの池のわきに場所があるからとさそってくれたので、そこに池を作りました。土地占拠の形ですが、後でちゃんと登記しました。最初は二三へクタールまで広ら始め、のちに農具などを買って一〇二へクタールまで広だということで銀行から融資を取り付けるというのは大変だということで銀行から融資を取り付けるというのは大変がということで銀行から融資を取り付けるというのは大変がということで銀行から融資を取り付けるというのは大変がということで銀行から融資を取り付けるというのは大変がということで銀行から融資を取り付けるというのは大変があるからとさそっところが、自分たちの池のわきに場所があるからとさそっところが、自分たちの池のわきに場所があるからとさそっという。

○試行錯誤と苦労の連続─マルシア

ってる人は持ってない人にあげたりしていました。その間の大力で始めたんですが最初はずーっとマングローブ林のでありました。手から血をは分け入って伐採するのを、手でやりました。手から血を帰って御飯を作って子供の世話してからまた夜帰ってきて帰って御飯を作って子供の世話してからまた夜帰ってきているという生活でした。皆ものすごく貧しかったので、おか当を持ってこれない人もいて、我慢したり、お弁当を持つてない人にあげたりしていました。その間のであり入っては、

に流産した人とかいろいろでて、結局今は一六人なんです

ね

りたお金とかにかかって、結局一六人に三〇〇コルドバし だったんですが、エビの頭取る人、池の見張りの人、船借 りに一三万コルドバかけて、売上げが一五万一千コルドバ て、今年は本当に大変で飢えていました。皆一食ぐらいで 金を返した後の残りなわけですが、当然生活費が足りなく か残らなかったんです。たったの五〇ドルです。これは借 エビ池作りにものすごいお金をかけてるので、去年は池作 長い時間かけたわけですから。だけどそれ以降というのは、 たときはもちろん嬉しくて、何しろそれだけすごく働いて てきたものを育てました。稚エビを入れて本格的に始めた それが表作で、裏作も約五〇〇キロ収獲できました。これ のは二年半ぐらい前からです。自分たちの池でエビが捕れ は稚工ビを入れたのではなく海水を入れた時に一緒に入っ く池を作ったら水がどんどん入ってきて、そこにエビが育 ったという感じで、約五〇〇キロのエビが収獲できました。 でした。ですから稚工ビを入れることもしないで、とにか 最初に始めた時には、誰もエビ養殖のことを知りません

頑張りました。



干し魚を作っている人たちと一緒に記念撮影をするマルシア。こんな小さな魚まで加工して食べ るのかと驚いていた。

副コーディネーター、書記、会計、あと何人か役員がいま います。役員会は五人からなっていて、 うになりました。うしろが見えないので分からなかったん 水産庁の人も一緒に乗っていたのにその若者は泳げないん たんですけど、彼女がひーひー泣いてるので大変でした。 て二人で三〇分ぐらい他の組合の人が来るまでそうしてい 掴まれて、そばに幸い木があったからその木にしがみつい その時私もそんなに泳ぎがうまい方じゃないのに髪の毛を ない人がいたんでその人を助けなきゃいけないし、 たら積みすぎてひっくり返っちゃった。その時ひとり泳げ 返すのに、小舟に一三〇のブロックを積んで入り江を通っ うことになっても決してパニックにはならないけど。 ですが、それが実は水産庁の人だったんです。私はそうい ろから私を掴んで、しがみついて離れなくて一緒に沈みそ ー駄目にしちゃ大変だし、ブロックは全部沈んじゃうし。 ルクレシア・リンド組合の役員会で私は教育担当をして 私が一生懸命岸に向かって泳いでるのに誰かがうし コーディネーター、

組合からブロックを貸してもらっていたわけです。それをで水門を作ったんですが、その時お金がなかったから他の

それから去年大変だったのは、コングリートのブロック



漁港に停泊している漁船で、漁の仕方などについて質問するパイン (右)。

離婚だと大騒ぎに―パイン

うち九人がそうです。一一人子供がいる人もひとりいて、

八人がひとりの父親、三人がもうひとりの父親です。

になっています。母子家庭が大変多くて一六人の組合員の経済委員会というのがあって、五人のうちの三人が責任者す。役員会には委員会が三つ、福祉委員会、教育委員会、

家のないところの木の下で二カ月間野宿をしながらみんな毎日手で池作りをしました。自分は最後に入ったメンバル、それから二年間オルグをやりました。その後コーディれ、それから二年間オルグをやりました。その後コーディれ、それから二年間オルグをやりました。その後コーディたわけですが、最初二七人のメンバーがいましたが、教育を受けた人は三人しかいなくて、ひとりは会計士でもうひとりは高校の教師、もうひとりは自分なわけです。あとはバナナ農園で働いていた人たちのような農民でした。ハ九年最初の収獲があったんですが、銀行に借金返したの六〇〇コルドバしか残りませんでした。四ヵ月間全然収ら六〇〇コルドバしか残りませんでした。四ヵ月間全然収ら六〇〇コルドバしか残りませんでした。四ヵ月間全然収ら六〇〇コルドバしか残りませんでした。四ヵ月間全然収ら六〇〇コルドバしか残りませんでした。四ヵ月間野宿をしながらみん

ルずつ収入がありました。これは私の教師三年分の給料で変よくて、銀行にお金を返したあとでひとりに一二〇〇ドました。その時七人がやめました。でもその年の裏作は大たらつれあいのリックはもう離婚だといって大騒ぎになり

した。それでつれあいたちも大喜びで円満になりました。した。それでつれあいたちも大喜びで円満になりました。だいたい池につくまで一二キロ〜五キロも買いました。だいたい池につくまで一二キロ〜五キロも買いました。だいたい池につくまで一二キロ〜一五キロも助かりました。だから全部山分けしたんじゃなくて、当助かりました。だから全部山分けしたんじゃなくて、当助かりました。だから全部山分けしたんじゃなくて、

を通して助けあっています。特に問題なくてお互いにエビそうした組合も、エビ養殖組合連合のメンバーになりたいなくて、特に最近出来たエビ養殖のはウノが多いわけです。

員を通して政府に圧力をかけ、中央銀行の総裁を呼んでき付けるようにしています。それから国民議会のレベルで議さちんきちんと払うということによって銀行の融資を取り一番の問題は融資の問題なんですけれど、借りたお金は

ました。

○組合に融資しない銀行―マルシア

ている。そして銀行融資がないので水門が崩れかけてると特にこの二年間日照りが続いて生産量がものすごく下がっの組合が持っている問題というのは池の構造の問題です。

ルクレシア・リンドとしてはどうにかして銀行融資がなか、土手が崩れてるとかいうのも手が回らない。

照りが続いた後今年の三月四月ぐらいに大雨が降って、土 照りが続いた後今年の三月四月ぐらいに大雨が降って、土 かないということを考えていますが、去年(九二年)銀行にはい な思いをしました。だから今年は何がなんでも銀行にはい な思いをしました。だから今年は何がなんでも銀行にはい な思いをしました。だから今年は何がなんでも銀行にはい かないと決めたわけです。銀行融資は絶対頼まない。こうかないと決めたわけです。銀行融資は絶対頼まない。こういうふうに労働者階級を侮辱してるのはけしからんと。日 照りが続いた後今年の三月四月ぐらいに大雨が降って、土 照りが続いた後今年の三月四月ぐらいに大雨が降って、土 にりが続いた後今年の三月四月ぐらいに大雨が降って、土 にりが続いた後今年の三月四月ぐらいに大雨が降って、土 にりが続いた後今年の三月四月ぐらいに大雨が降って、土 にりが続いた後今年の三月四月ぐらいに大雨が降って、土 にりが続いた後今年の三月四月ぐらいに大雨が降って、土 にりが続いた後今年の三月四月ぐらいに大雨が降って、土 にりが続いたりにはいる。

は生活のために当てるということを考えてます。のに他からお金を借りたので、今度の裏作はまず借金を返が五○メートルぐらい壊れてしまったんです。それで直すが五○メートルぐらい壊れてしまったんです。それで直す

政府の融資政策っていうのは組合はとにかく締め上げていって、融資は絶対しない。いっぽう民間企業に対してはたちがしなければならないことは、ひとつは組合のレベルたちがしなければならないことは、ひとつは組合のレベルたちがしなければならないことは、ひとつは組合のレベルたちがしなければならないことは、ひとつは組合のレベルたちがしなければならないことは、ひとつは組合のレベルでどういうシステムのエビ養殖をやっていくかをきちんと決めることと、どんどん増えていく集約池に対してどうや決めることと、どんどん増えていく集約池に対してどうやでどういうという。

政府の組合つぶしに対して―パイン

んです。しかしそれは組織化したという点では第一段階で、ぐらいしかなかった組合組織を四○○ぐらいに増やしたですが、サンディニスタ革命は革命勝利して、組合というひとつは組合というものが抱えている政治経済的な問題

組合を育てるというところまで手がまわらなかったんですね。で、ウノ政権になってからは組合が全然大事にされなくて、政府の政策というのはどちらかというと組合つぶしくて、経済的に締め上げていく要するに融資をしない。これはエビだけじゃなくて全ての労働組合についていえるこれはエビだけじゃなくて全ての労働組合についていえることですけれども、そういうふうな感じになっているわけできですがあります。

その状況にあって、エビ組合の連合体としては、まず組織的に組合をもう一回強化するということ、生産したものにエビ養殖の技術というものをもっと身につけるというとと、運営方法を改善していくということ、生産したものに対してより良い値段で売れる市場を確保するということに対しては、まず組織的に組合をもう一回強化するということ、それから技術

獲して売らないといけなかった。自分たちの組合は銀行融どがばたばたしだして、まだちっちゃいエビを大急ぎで収地に水を入れていたけれども、急に水が減っちゃったらエ要するに雨が降らないとか水不足だということで、借金がこのところそういう政治経済的な問題だけじゃなくて、このところそういう政治経済的な問題だけじゃなくて、

から かけない。融資はもらえるけど返さなきゃいけないですかのは今のところないわけですが、ただ今度は返さなければ のは今のところないわけですが、ただ今度は返さなければ

●粗放養殖は民衆のオルタナティブ―パイン

ていうものを保っていくことも大事だと思います。業や政府に対しても伝えていって、これからも技術協力っこれからも、ひとつは組合レベルだけじゃなくて民間の企

○継続的に南南交流を―マルシア

今回の旅で一番意味があったことというのは、さっきパインさんがいったようにやっていくかということなんですが、インさんがいったようにやっていくかということなんですが、インさんがいったようにやっていくかということです。これではなくて見せていただいたような伝統的なやり方でなければだめだと、政府、民間とわず伝えていきたい。今のところニカラグアでエビ養殖を考えている人は全部集約型したカラグアでエビ養殖を考えている人は全部集約型したの考えていない。集約型以外のやり方は分ってないし、知か考えていない。集約型以外のやり方は分ってないし、知か考えていない。集約型以外のやり方は分ってないし、知か考えていない。集約型以外のやり方は分ってないし、知か考えていない。集約型以外のやり方は分ってないし、知りでは、本質を関係であるということを分って集約型でなくたってエビ養殖は出来るということを分って集約型でなくたってエビ養殖は出来るということを分ってもらいたい。

うこと。この旅の結果というものをもっと意味のあるものそれから組合の人たちにはきちんとした報告をするとい

にするために伝えなければならない。今回の旅のように南の国同士が具体的に交流する南南交流は、とても大事だと思います。直接の交流、経験の分かちあい、彼らの知識ととは大変すばらしいことです。ですからこれだけでおわりにならないように、これからもなんらかの形で私たちに技術的な面での色々な協力を続けていただけたら大変嬉しい。こういうような南南交流を、今回はインドネシアとニカラグアですけれどもそれだけじゃなくて、色々な国同士がこういう交流が出来たら素晴らしいと思います。

インドネシアの



エビは神からの授かりもの

大野 和興 (農業ジャーナリスト/ATJ顧問)

この旅に同行し、印象深かったことのいくつかを報告する。養殖産業が直面しているさまざまな問題を教えてくれた。の「有機エビ研修の旅」は、自然の力を巧みに利用するイの「有機エビ研修の旅」は、自然の力を巧みに利用するイ

どこも耕されている

る。ニカラグアの二人はスペイン語しか話さないので、シスターはちょっと日本の枠にはおさまりきらない 大型の人で、機関銃のようにスペイン語と英語を話す。中 大型の人で、機関銃のようにスペイン語と英語を話す。中 米に滞在して、さまざまな民衆自立の活動に取り組んでい まする。ニカラグアの二人はスペイン語と対話を話す。中

スターが通訳をする。日本側は、ATJから記録担当を含め三人、上智大学教授の村井吉敬さん、インドネシアの漁民問題の研究者鈴木隆史さん。それに現地から飛び入りで、バリ島で二年間農村に住み込み、手織物生産女性の生活を調査している中谷文美さんが加わった。村井さんというのは、岩波新書で『エビと日本人』という本を書き、エビを食うことのいかがわしさを日本人に知らしめた、あの村井さんだ。中谷さんは村井さんの教え子で、現在オックスフォード大学で文化人類学を研究している。村井、鈴木、中谷の三人はインドネシアの言葉が堪能る。村井、鈴木、中谷の三人はインドネシアの言葉が堪能る。村井、鈴木、中谷の三人はインドネシアの言葉が堪能

さんは三五歳。若い社長だ。共に参加、親切味あふれる世話をやいてくれた。エミール同社スラバヤ工場長のモフタールさんが、何人かの社員とインドネシア側からは、EPM社の社長のエミールさん、

に一〇日を過ぎ、深夜になっていた。 サールにある指定のホテルに全員が集結したときは、すで から、鈴木さんは大阪からである。バリ島の最南端デンパ りしてやってきた。ATJの三人のうち二人は東京から、 グアの一行はメキシコ、ドイツと西半球をなぜかひとまわ 一人はマニラから飛んできた。村井さんはオーストラリア 一行がバリ島に集結したのは九月一〇日である。ニカラ

北へ向かう。エミールがあいさつした。 一一日朝、 EPM社が用意してくれた車でホテルを出発、

こじんまりと地形のなかに配置され、美しい田園風景をつ や豚がおり、果物のなる木が植えられている。それぞれが 中いくつかの村を通り過ぎる。水田があり、畑があり、鶏 り、農民はそこに戻りつつあります」。 されています。そのなかで伝統的な養殖はいまも続いてお のエビ養殖は環境問題と経営問題に直面して、次第に閉鎖 「インドネシアのエビのすべてを見て下さい。 車はバリ島の中心部にある山間地域を越えて進んだ。途 いま、集約型

> ている。ジャックフルーツ、バナナ、マンゴー、スターフ ていた。どの家にも、庭先に何本かの実のなる木が植わっ

ルーツ、ランブータンなどだ。

日本の農村風景を含め、モンスーン・アジアに共通する

どんな土地も耕されている」と言っているのだとシスター 何かがそこにはあった。マルシアがしきりにシスターに話 しかけている。「あんなところにまで何かが植えられている。

が教えてくれた。

シアはそのことに気が付き始めている。それだけでもここ 農民がつくってきた田園風景は見られない。農業といえば ション農業しか存在しなかったニカラグアでは、こうした へきたかいがあった。シスターはそう付け加えた。 つかないのだ。シスターはそう説明してくれた。いまマル 大農場しか思い浮かばない人々は、そこに耕せる土地があ っても、耕して自分たちが食べるものをつくろうとは思い 長年の植民地支配のもとで、大農場主によるプランテー

収獲が半減した集約池

くっていた。土地は無駄なく耕されている。山の畑はきれ

インゲン、ニンジン、キャッサバなどが少しずつ植えられ いに手入れされ、トウモロコシ、トマト、白菜、キャベツ、

バリ島では、この日と翌日の二日間かけて二つの集約型

養殖池と日本の国際協力事業団(JICA)がインドネシ

もとは水田だったところだ。大きな水門と深井戸で水を出 もう一つは三五ヘクタールの池をもつ会社である。 約池の一つは二八区画、二二へクタールの池をもつ会社、 みたが、ガチガチでまるでコンクリートのようであった。 し入れしていた。水を抜き、干している池の土を採取して りはコンクリートで固められている。池の底は土で、もと 典型的な集約型養殖であった。二八区画に分かれた池の周 ア政府に協力して行っているエビ養殖研究施設を見た。集 最初訪ねた会社は五年前から操業しているということで、 ていた。半分以下になってしまったわけだ。 たものが、いまでは二・四トンになってしまった、と嘆い

いる。ここでは四五人の従業員が働いていた 淡水は深井戸を掘り、地下一二〇メートルから汲み上げて

案内してくれた池の責任者のダルミントさんによると、 で、ピーク時には一回一区画で五・八トンの水揚げがあ という。このため収獲量は年々減っている。年二回の収獲 「エラに腫瘍ができる。しかし何の病気か不明なのだ」 いま一番困っているのは病気の発生だということであった。

たら、 理がいかに薬品漬けになっているかを物語っているといえ ンの死骸であった。かなり大量である。病気対策には大量 プランクトンさえ生息できないということは、集約池の管 トンはかっこうの餌なのだが、ここでは邪魔物にすぎない。 の薬品が使われる。後で紹介する伝統養殖池ではプランク で何かをすくいとっていた。近づいてみると、プランクト 思ったが聞きそびれた。池の周りのあちこちで従業員が網 じように飼料会社が池を経営しているのかもしれない、 池は飼料会社ももっているということであった。もしかし 餌は一日四回、穀物に魚粉を混ぜたものを与える。この 池が飼料会社をもっているのではなく、豚や鶏と同

獲はやはり年二回。ここでも病気と収獲量の低下に悩んで 業を始めて四年目ということになる。ここは池の周りがコ 〇〇平方メートルと四五〇〇平方メートルの二種類だ。収 やはり水田跡地につくった池だ。八九年建設というから操 ンクリートではなく、土の堤であった。池の一区画は三五 翌日訪ねたエビ養殖会社はヌガラというところにあった。

「一ヘクタール年間で一〇トンとれたこともあるが、いまは 稚エビのときに出る。病気が出たときは、エビを他の池に 六トンから八トンというところだ。病気は今年あたりから 移し、水を寝かせることにしている」 出始めた。ホロビヨというバクテリアが媒介する病気で、

JICAを訪ねる

シア農業省農業研究開発庁の試験研究機関である。プロジ グロガ村のゴンドール浅海養殖研究所にあった。インドネ デンパサールから北西に一三〇キロほどいったプンレン県 JICAがエビ養殖プロジェクトを進めている施設は、

> 派遣、日本への研修生の受け入れ、研究資材として二億五 界銀行から五億円の融資を受け、JICAからは専門家の 林水産省の共同プロジェクトだ。研究所の建物に対し、世 画」で、インドネシア農業省とJICA、それに日本の農 エクトの正式名称は「インドネシア・エビ養殖研究強化計

〇〇〇万円の供与が行われている。

稚工ビ飼育技術、コスト低減のための効率的な飼料開発、 研究の内容は、健康な人工種苗生産のための親エビ養成と なっていた。私たちが訪れたのは終了直前であった。共同 日。五カ年計画で、九三年一〇月二五日には終わることに このプロジェクトが始まったのは一九八八年一〇月二六 なった」と話してくれた。 時期でもあり、エビ業者もここへ次第に相談にくるように 方式の養殖技術に次第に問題が現れ、敬遠され始めていた 水の管理方式など飼い方、といったことが分かった。台湾 たら、親エビの供給、コストダウン、マーケッティング、 は、「ここへきてまず何が一番必要とされているかを調査し 病気対策などだ。JICAから派遣された日本人スタッフ

立たせるかだ」というところまでこぎつけた。されていた技術もすっかり完成、「後は経営としてどう成り親エビに仕立てるという、当初のニーズ調査でも最も期待

研究所では施設をすっかり見せてもらい、話もくわしく 研究所では施設をすっかり見せてもらい、話もくわしく 関くことができた。技術的には、きわめて高度なレベルを 養殖が環境問題や病気の発生、収益率の低下など次々と問題を抱え、行き詰まっているとき、近代化を一層推し進めるこうした研究がどこまで問題を解決できるのか、根本的 る こうした研究がどこまで問題を解決できるのか、根本的 る こうした研究がどこまで問題を解決できるのか、 話もくわしく

稚エビの確保

二一・プラセジョさんの案内で海岸に出た。

地元稚エビふ化組合(ハッチェリー組合)のリーダー、ト東ジャワ島では稚エビの採取、養殖、伝統池でのエビ養殖、要ジャワ島では稚エビの採取、養殖、伝統池でのエビ養殖、中では稚エビの採取、養殖、伝統池でのエビ養殖、大田間のバリ島での調査の後、一行はジャワ島へ渡った。

心して見とれていた。

朝七時という早い時間だったが、すでに稚工ビ漁は始ま

大きく分かれた三角形の網を押して、腰くらいの深さのと大きく分かれた三角形の網を押して、腰くらいの深さのところを海岸線と平行に歩いて採取する方法。二つ目は、細ころを海岸線と平行に歩いて採取する方法。二つ目は、細まだ。いずれも一回の採取時間は一五分以内でないといけない。それ以上の時間をかけると、網の中の稚エビがストレスで死んでしまうからだ。第三が定置網漁法だ。浮きをつけた丸い網を使う。この日は第一と第二の方法を見るこっけた丸い網を使う。この日は第一と第二の方法を見ることができた。

さな生き物を一尾一尾数えて取引きするその細かさに、感っていて、慣れないと見落としてしまいかねない。この小していく。早い。稚エビの大きさはほんの数ミリ、透き通殻ですくって一尾一尾声を出して数えて、別のタライに移

クフィッシュ)の稚魚もとれるが、これは一尾三○から四くとれるとも話していた。稚エビと同時にバンデン(ミルので一日一○○尾くらいしかとれないが、シーズンだと二ので十日一○○尾くらいしかとれないが、シーズンだと二



年々捕れる稚エビも減っ

おり、

天然稚エビのシーズンになると、池主は天然物のほうがよ ので、海での産卵が少なくなるという問題がある。第二に、 るという。まず第一に、ふ化業者が海で親エビを捕獲する 天然稚工ビ採取業とふ化業者とは利害が対立する関係にあ 道々エミールが説明してくれたところによると、朝方見た この後、 舟の借り賃や燃料代は収獲から差し引かれる。 ハッチェリーと呼ばれる人工ふ化場を訪問した。

〇ルピアとエビよりはるかに高い。 稚エビはこの後、仲買人、産地集配人、消費地集配人と

いう段階をへて養魚池の池主のところに届く。浜値は一

五

ルピアだったものが、池主のところでは二〇ルピアから三

〇ルピアほどになる。この後、産地集配人のアリフさんの

相当なものだ。つい最近大学を卒業した長男が家に戻って、

〇人の仲買人を抱えている。月収五〇万ルピアというから、

アリフさんは一九七〇年からこの仕事をしており、一〇

父の仕事を手伝っている。アリフさんは九艘の舟をもって

それを漁民に貸し付けている。漁民は歩合制で仕事

るので、鈴木さんに読んでもらうと、「タイガーとミルクフ 自宅兼事務所を訪ねた。入り口の窓ガラスに何か書いてあ

イッシュ稚魚の売買」と書いてあるということだった。



稚エビの人工ふ化場。ここでは稚エビが工業製品のように大量生産される。

どうかにある。台湾方式は入れ替えないが、ここでは

日

ワイ方式と台湾方式の違いは、ふ化場の水を入れ替えるか方式だという意味である。ハルン社長の説明によると、ハある。この会社のふ化のやり方は台湾方式ではなくハワイ

との間に何か関係があるらしい。そういえばJICAの研個の卵を産む。親エビは目玉をつぶす。視神経と生殖機能ターを通して水槽に導いている。親エビは一回で一〇〇万年からの水は、砂と炭を何層にもおいたタンクのフィル

いエビができる」と力説していた。

は環境をメチャメチャにしている。ハワイ方式のほうがよに五〇%の水を、海水で入れ替えているという。「台湾方式

東ジャワには六三のふ化場があるが、そのうち稼働して最近では経営不振に陥っているふ化業者が多い。いのでそちらを買い入れるから、人工稚エビは売れなくないのでそちらを買い入れるから、人工稚エビは売れなくな

用して補足してくれた。いるのは六○%ほどだ、と鈴木さんが現地の新聞記事を引東ジャワには六三のふ化場があるが、そのうち稼働して

68

ネシア人だ。入り口の門に「システム ハワイ」と書いて

五人、社長はハルンさん。小太りの陽気な四八歳のインド

私たちが訪れたふ化場はサニタラ社といった。従業員三

が食べる。稚エビの生産量は年一億五〇〇〇万尾という。いた。目玉をつぶされた親エビは一産で終わり。後は人間究施設では、目玉をつぶさない方法を研究してるといって

援助)システムの講義を行い、切り抜けた。ったが、村井さんが黒板を使って日本のODA(政府開発の質問してきた。なんとか商談に発展させたい気配濃厚だ

を示し、現場を案内した後、会議室に招き入れて、いろい

陽気な社長は私たち一行が何をしにきたのか、大変興味

土は子孫からの預かり物

インドネシアの伝統的な粗放養殖技術に、彼が自分なりのの郊外の広大な湿地に広がるハジ・アムナンのエビ池は、ムナンの池が広がるウジュン・パンカという町に着く。そATJが扱うエコ・シュリンプの生産地のひとつハジ・ア東ジャワの大都市スラバヤから車で一時間ばかり走ると、東ジャワの大都市スラバヤから車で一時間ばかり走ると、

アムナンは、農民の風貌と手をもつ人物だ。彼の池は戦後とができるイスラムの称号である。そのハジの称号をもつハジというのは、メッカの巡礼を果たした人が名乗るこ

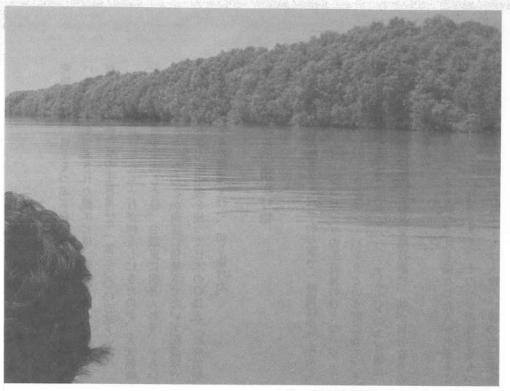
工夫を加えたものだ。

違いなさそうだ。という答えが返ってきた。数百ヘクタールに及ぶことは間ものだ。彼の池の総面積を聞くと、「ここから見渡す限りだ」ものだ。彼の池の総面積を聞くと、「ここから見渡す限りだ」という答えが返ってきた。

年から裸一貫でエビ養殖を始めた彼が、二〇年以上かけて、年から裸一貫でエビ養殖を始めた彼が、二〇年以上かけて、 生たのひとつ作ってきた。池の深さは六〇~七〇センチ程 で、集約池に比べ随分浅い。池の水の塩分濃度調整は、ソ で、集約池に比べ随分浅い。池の水の塩分濃度調整は、ソ で、集約池に比べ随分浅い。池の水の塩分濃度調整は、ソ で、集約池に比べ随分浅い。池の水の塩分濃度調整は、ソ で、集約池に比べ随分浅い。池の水の塩分濃度調整は、ソ で、集約池に比べ随分浅い。池の水の塩分濃度調整は、ソ で、集約池に比べ随分浅い。池の水の塩分濃度調整は、ソ で、集約池に比べ随分浅い。池の水の塩分濃度調整は、ソ で、集約池に比べでである。 そこにプランクトンが発生し、それがエビの餌になるのだ。 をこにプランクトンが発生し、それがエビの餌になるのだ。 やこにプランクトンが発生し、それがエビの餌になるのだ。 なる。それがまたエビの餌になるのである。

はいう。

この循環の考え方は、まさに有機農業そのものである。彼



ようとは思わない」

ニカラグアの二人が熱心に質問を始めた。農民自身がつ

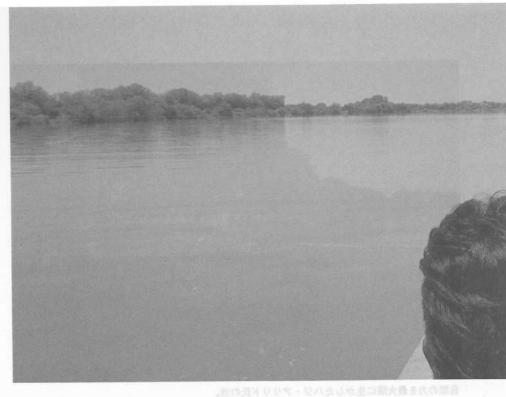
は神からの授かり物だと考えている。だから生産性をあげ し餌はよそからもってくることはしない。池で取れるもの ということではない。水と土の管理はきちんとやる。しか 土を壊すからだ。伝統的方法といっても、なにもやらない

をほしい」。 「私たちはエビを始めたばかりだが、どうすればよいか助言 最後に、とことわって、パインさんが質問した。 ひとつに対し、ニカラグアの状況を聞き出しながら答える。

か、稚エビの死亡率は・・・・。ハジ・アムナンはそのひとつ 雨が降ると水温が下がってしまうが、水の温度は大切なの 池の深さは、どうやって池を掘ったのか、ニカラグアでは うすが伝わってくる。塩分の調整は、池の土は耕すのか、 くりあげた伝統的手法の池を始めて見て、興奮しているよ

一瞬の間を置いて答えが返ってきた。

けすべきだ。あぜ道は高くし、水が漏れないようきちっと すぎる。底を深くして、その土で土手をつくって池を区分 つくること。水路は水がよく流れるようきれいにしておく。 「(あなたの話を聞くと)池の区画が大きすぎるし、池が浅



すべて自然の力で、スコーススース・スコース

二人は懸命にメモをとっていた。

稚エビ用の池と養殖池の回転がスムースにいくよう計画的

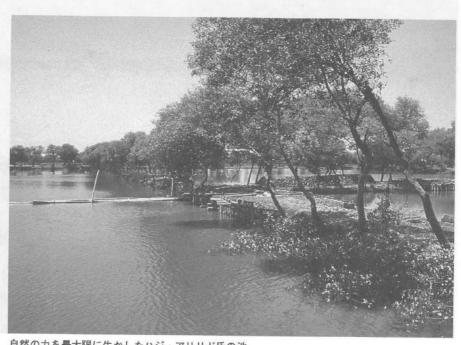
にしなければいけない。収獲後は必ず池を干すこと」

他の水は潮の満ち引きを利用して川から引いている。ポ 地の水は潮の満ち引きを利用して川から引いている。ポ 地の水は潮の満ち引きを利用して川から引いている。ポ がっていた。 がっていた。 でがっていた。 でがっていた。 がの水は潮の満ち引きを利用して川から引いている。ポ にがっていた。

塩分濃度の調整は上流から流れる塩分の薄い水と、下流

てが自然の力を利用する仕組みになっている。

た水を汲み出すのに使う程度で、ほとんど使わない。すべンプはあるが、収獲が終わって池を干すとき、最後に残っ



足りないようであったら、柔らかい葉や茎をもつ草、ジョ ずれも、草そのものが餌になるとともに、 繁殖させるという効果をもっている。もしこうした水草が をつくる、という返事であった。 していた。 ピアピの木が池の周りに数メートル間隔で植わっている。 繁茂させている。ルムというのは青い苔の一種である。 池全体が緑で包まれており、 池の中には、ガンガンのほかルムという二種類の水草を この木の枝を切り、 理由を聞くと、この木の葉はエビに適した水質の水 池の水に突っ込んであるのが目に なにかほっとする空間を形成 プランクトンを 0

エビの成長の関係を見極めるのが、池主の腕の見せどころ に混ぜ合わせて行う。 つまり海から満潮に乗ってやってくる塩分の濃い水を微妙 雨の量など案配しながら稚エビを放す。塩分濃度と 雨が降ると塩分は薄くなる。

その理由だったが、ここではマングローブの一種であるア 意味では殺風景な風景だった。水漏れするからというのが 有機農業的養殖とはいいながら、緑はほとんどなく、その

ジ・アムナンの池には土手に木は植えていなかった。

程で腐り、プランクトンが発生するという。ルジューやスルネンを池に入れるという話であった。三日

「大切なのは、水のコントロールだ」とハジ・アリリドは語っていた。池の水深は六〇~八〇センチ。稚エビを入れ、最初の二カ月は六〇センチを維持する。二カ月たったら水を三〇~四〇センチに減らし、それからほぼ八〇センチにまで水深を深くする。水を入れ替え、かつエビの成長に合わせて水深を調整しているわけである。池にはエビだけでなくミルク・フィッシュやカニ、小魚も生息し、共存けでなくミルク・フィッシュやカニ、小魚も生息し、共存している。

でおいしいエビだ。出荷され、ATJを通して輸入されている。とびきり元気出荷され、ATJを通して輸入されている。とびきり元気でおいしいエビだ。

いるという話を聞いた。村井教授はいるという話を聞いた。村井教授はよれてが前から始めたが、いまでは操業停止状態に追い込まれてか前から始めたが、いまでは操業停止状態に追い込まれているという話を聞いた。村井教授は

りにきたことがはっきりしてきた。インドネシアの集約エ「生態系と自然環境を無視した収奪型の集約栽培はもう終わ

ビ養殖は確実に台湾と同じ道をたどっている」

と語っていた。

池主ハジ・アムナン

(「生活と自治」記者)

ドネシアがこれを抜き、第一位の輸出国になっている。 政策を打ち出して以降、その傾向が顕著になった。日本へ 商品。八四年、インドネシア政府が養殖による生産増大の のエビ輸出では台湾が群を抜いていたが、八八年からイン エビはインドネシアにとって、石油とともに重要な輸出

ところが、政策によって多くの養殖池がエビ養殖に転換し デン(英語名・ミルクフィッシュ)とよばれる魚が主体。 インドネシアの汽水養殖の歴史は長く、もともとはバン

池をもち、およそ一三〇人の池主とともに、池主連合とも いうべき、ハジ・アムナングループを組織している。 のるものだそうだ。現在、個人で三〇〇ヘクタールの養殖 ハジとはイスラムの称号で、メッカ巡礼を果たした人が名 ハジ・アムナンさんも、そんなエビ養殖の池主の一人だ。 もともとは農民の出身。養殖との出逢いは二〇年以上も

前に遡る。

えて、養殖池をもつための資金にしたんだ」とアムナンさ 料は魚の売上げの五%ほど。その中からお金を少しずつ蓄 殖は一般的ではなく、ほとんどの池がバンデンだった。給 バンデンの養殖池で番人をしていたんだ。その頃、エビ養 「養殖池で仕事をするようになったのは一九七〇年から。 74

価格はバンデンと較べものにならないほど高かったという。 できたのだ。アムナンさんの記憶によればその頃、エビの 殖を手がけたため、池を手に入れる資金を確保することが バンデンの養殖一本槍だった当時、バンデンとエビの混養 うつ。才覚があったというべきだろうが、他の池主がまだ った。こんな、"にわか池主"の生活は一年ほどで終止符を クタール、しかも池主ではなく、池を借りてのスタートだ それが実現したのは七年後。もっとも、始めの規模は五へ

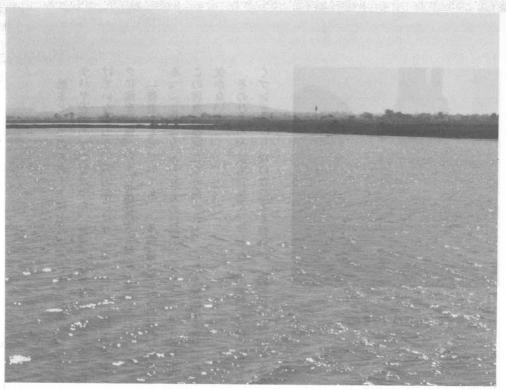
欠かない。 けていなかった。八四年にはブンガワンソロ流域のグレシ ラバヤ近郊のブガでだった。地域では誰もエビ養殖を手掛 くブンガワンソロの水位より低い。このため、 この言葉が幾度となく聞かれた。これを証明する話には事 る」。これがアムナンさんの口癖だ。インタビューの最中に クに池を確保、徐々に規模拡大をはかっていった。 池主としてのスタートは七八年、ジャワ島第二の都市ス そのひとつが洪水対策だ。グレシクの養殖池はことごと 資金をもっていても、一生懸命にやらなければ失敗す ハジ・アムナン氏(左)。 1978年に自分の池を持ってから、 の養殖技術を実践してきた。 雨期になる

> とが頻発していた。インドネシアのエビ養殖はもともとが と川の水位が上昇し、 ことは必至で、安定的な収獲はおぼつかない。そこで堤防 き、エビがカゴに入るのを待つだけという極めてシンプル 収獲は川の水位次第。養殖池と干満する川の水位の高低差 いるため、これは宿命的な課題ともいえた。粗放型養殖の 伝統的粗放型養殖で、川の水位の高低を利用して養殖して んだが、私も堤防作りをやりましたよ」とアムナンさんは たのだ。 を築き、そのうえ、保水域として池と川の間に水田を設け なスタイル。このまま放置すれば、洪水に毎年見舞われる を利用する。水門にはプラヤンとよばれる竹製のカゴをお 「もちろん機械などなくすべてが人の力。 水が養殖池に逆流して洪水になるこ 大勢の人に頼

当時を振り返る。

なった。 その甲斐あって、 いまでは洪水に見舞われることはなく

ンとよばれる水草を繁茂させ、その水草や発生したプラン ら始めた。収獲方法は前述の通りだが、養殖方法はガンガ 技術の確立だ。アムナンさんもエビ養殖は伝統的粗放型か 規模拡大と基盤整備、 これと同時に取り組んだのが養殖



他の池主と意見交換したり、漁業に関するデータを参考に けるのだという。これをモデルンシステムというそうだが、 池に移される。こうすることで、池を無駄にすることを避 は二ヵ月ほどで次の池に移され、その後二ヵ月で収獲用の 方法は、収獲まで三ヵ所の池にエビを移動させる。稚エビ 獲まで一ヵ所の池で養殖される。ところがアムナンさんの 伝統的粗放型や後述する集約型養殖では、稚エビから収

養殖池の深さは七〇センチ前後。しかも面積は集約型は

してこの方法を編み出していった。

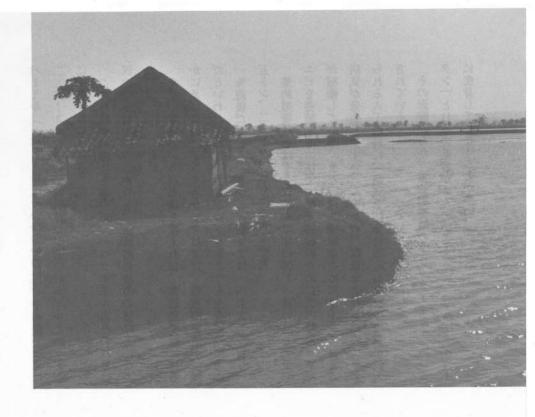
ミミズが発生しやすくなる。これもエビのエサになるとい

いエサになるのだという。また、この方法だと池底の土に

池に戻す。こうすると、プランクトンが大量に発生して良 を行う。そしてこれを土手で日干しにして堆肥化し、再び ただ、この水草を繁茂させ過ぎないように定期的に草刈り

方だ。しかし、これでは収獲量が上がらない。いまでも、 て収獲するだけという、まさに粗放の名にふさわしいやり クトンをエサにする。稚エビを池に入れ、後は成長をまっ

一へクタールで一回二〇〇キログラムが平均的な数字だ。 アムナンさんも、ガンガンを繁茂させている点は同じだ。



言うに及ばず、通常の伝統的粗放型より広い。エビが成長言うに及ばず、通常の伝統的粗放型でも混養殖はされていてしまう段階を除き、混養殖をしている。バンデンは運動でしまう段階を除き、混養殖をしている。バンデンは運動量が多い魚で、集約型で酸素補給のために使われる水車の量が多い魚で、集約型で酸素補給のために使われる水車の合が、アムナンさんはこれを意識的に実践していることがるが、アムナンさんはこれを意識的に実践していることがるが、アムナンさんはこれを意識的に実践していることが表表

その経験から、稚魚を池に入れてから後、一週間は三〇

があったんだ」

それを知らないものだから、エビが成長しないということ

に調整するようになった。
二五パーミル、そして収獲までが二〇パーミルというようパーミル(一パーミルは一〇〇〇分の一)、その後一ヵ月は

た。四○○キロ~四五○キロと、伝統的粗放型の倍以上になっ四○○キロ~四五○キロと、伝統的粗放型の倍以上になっこれら技術の確立もあって、一へクタール当りの収量は

五トン、二〇トンの池も出てきている。
ただ、収量という点だけを捉えれば、集約型養殖にはるただ、収量という点だけを捉えれば、集放型養殖が主流がに及ばない。インドネシアではまだ、粗放型養殖が主流がとが、収量という点だけを捉えれば、集約型養殖にはる

集約型養殖とはまさに読んで字の如し。狭い池で大量の集約型養殖とはまさに読んで字の如し。狭い池で大量のされる人工飼料に、病気予防を目的にした抗生物質が混入られる人工飼料に、病気予防を目的にした抗生物質が混入られる人工飼料に、病気予防を目的にした抗生物質が混入られる人工飼料に、病気予防を目的にした抗生物質が混入されている。

に変身してしまうことが多い。タン」と日本の業者がよんでいるように、ブルータイガーをの影響からか、集約型養殖のブラックタイガーは、「青

生産量の落ち込みを経験したことは、記憶に新しい。を台湾が、八八年から八九年にかけて病気のために急激なた台湾が、八八年から八九年にかけて病気のために急激なたら消が、八八年から八九年にかけて病気のために急激な

約型養殖をあきらめる池主もあらわれている。インドネシアでも、病気や連作障害などの理由から、集

批判的だ。

「人工飼料を使えばそのカスが土の中に溜まり、エビが

に否定する。そして、自らがこれに関わる可能性について、次のよう病気になる危険性がある。土に悪いことはしたくない」

「集約型養殖への転換は可能だし、その気になればいつ「集約型養殖への転換は可能だし、その気になればいっまわれたと報じられたことがあるそうだが、それはなが検出されたと報じられたことがあるそうだが、それは思われたくない」

然循環や土地の生産力を考えながらエビの養殖に取り組んアムナンさんは、伝統的粗放型養殖に依拠しつつも、自

もっとインドネシアでも広めていきたいと思っている」。私の養殖方法は自然を生かし調和させるもの。この方法をンドネシアのエビ生産者の一人として日本に感謝したい。るまでは、エビの値段はそう高くはなかった。だから、イ

岐路に立たされたインドネシアのエビ養殖業

鈴木隆史(漁業経済研究者)

一・インドネシアのエビ漁業と養殖業の展開

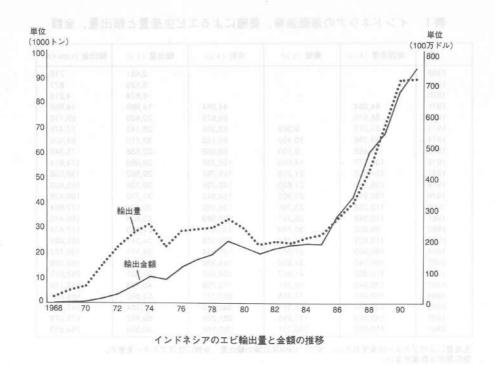
一九九一年のインドネシアにおける冷凍エビ輸出金額は 七億五〇〇〇万ドルに達し、総輸出金額の二・五%を占め ている。インドネシアにとってエビは非石油・ガス輸出産 品のなかでも花形商品だ。これまでインドネシアではエビ 品のなかでも花形商品だ。これまでインドネシアではエビ た。確かにエビはマクロ的に見ればインドネシア経済にと って大きな役割を果たしてきたといえるだろう。しかし、 そのエビ増産の過程では私たちが知ることのなかった多く の問題を発生させている。そして今、急激な成長を遂げて きたインドネシアのエビ産業が大きな転換を迫られている のだ。一体何が起きているのか。

ビトロール漁業による海産エビの輸出によって始まった。インドネシアのエビ輸出は、一九七〇年代に発展したエ

日系合弁会社がイリアン(ソロン)とアンボンに基地を建日系合弁会社がイリアン(ソロン)とアンボンに基地を建ける一方で、冷凍工場が建設され、日本市場向けの冷處をする一方で、冷凍工場が建設され、日本市場向けの冷 しょう (ソロン)とアンボンに基地を建ける第一次エビプームだ。

しかし、ジャワ島やスマトラ島沿岸ではエビトロール漁 と資源保護を目的に一九八〇年、大統領令(Keppres 民と資源保護を目的に一九八〇年、大統領令(Keppres No.39/80)によるエビトロール漁業の禁止(全面禁止になるのは一九八三年)に踏み切った。

ったが、一〇年後の一九七九年には三・三万トン、金額で輸出は、わずか二四〇〇トン、七二万ドルにしか過ぎなかトロール漁業が盛んになり始めた一九六八年の冷凍エビ



だ。 通の 多く操業しており、その実数はわからない。こうした冷凍

しかも数字には上ってこない違反船が

操業禁止直前には三〇〇〇隻以

エビの大半はもちろん日本向けに輸出され、その生産や流

過程には日本の大手漁業会社や商社が関わってい

たの

にも上っている。

ビトロール漁船の数は、

この

1

口 1

ル

漁業禁止によって一九八一

年の冷凍エビ

0

+ は二

一億ドルへと急増し

ている。

の急増 は

スマトラ島やジ

ワ島沿岸の零細漁民の犠牲と資源乱獲によってもたらさ

儲かるエビを求めて増加の一途をたどったエ

れたものだ。

を推進した。

ドネシアの非石油

計で見る限りその影響は少なかった。しかし、すでにイン 輸出量は二・三万トン、一・六億ドルに落ち込んだが、

めつつあったエビ

の輸出増加をさらにはかるため、

政府は

ガス輸出産品のなかで重要な位置を占

九八四年頃から積極的にエビ(プラックタイガー)

1 ル漁 から養殖

このエビ養殖は、 ジャワ島、 スマトラ島、 スラウェシ島

表1 インドネシアの海面漁業、養殖によるエビ生産量と輸出量、金額

年	海面漁業 (トン)	養殖 (トン)	合計 (トン)	輸出量 (トン)	輸出金 (1,000 ドル)
1968	V			2,461	718
1969	1/3			5,129	877
1970	10			6,874	4,216
1971	44,064		44,064	14,986	14,658
1972	56,575		56,575	22,620	29,710
1973	53,017	9,368	62,385	28,146	57,476
1974	49,756	10,409	60,165	32,110	84,426
1975	58,465	9,603	68,068	22,838	75,249
1976	106,677	14,059	120,736	29,089	114,814
1977	124,582	21,215	145,797	29,582	138,036
1978	128,166	21,630	149,796	30,539	155,602
1979	130,917	23,925	154,842	33,732	198,428
1980	112,356	23,796	136,152	30,471	177,894
1981	110,348	28,241	138,589	23,604	156,460
1982	99,928	30,749	130,677	24,583	177,434
1983	110,621	27,754	138,375	24,241	185,499
1984	100,955	27,593	128,548	26,171	190,782
1985	106,742	37,656	144,398	27,798	193,348
1986	116,450	41,817	158,267	33,931	280,273
1987	130,942	58,981	172,759	40,794	342,139
1988	152,487	77,785	230,272	53,002	485,662
1989	142,344	98,371	240,715	71,704	547,725
1990	143,993	107,295	251,288	89,887	678,079
1991	150,037	140,131	290,168	90,556	754,853

業者が誕生し、

を次々と建設し、村々にはパッカーにエビを供給する集荷

過当競争ともいえるエビの買い付けが行な

エビを買い付け、輸出する業者

(パッカー) が冷凍工場

生産量にはロブスターは含まれない。 また、1989年以降の輸出量、金額にはロブスターを含む。空白箇所は数値がない。

たにもかかわらず、銀行の積極的な低利融資がなされたたピア約○・○五円/一九九四年一月)もの投資を必要としを開始した。この近代的なエビ養殖には数億ルビア(一ルを開始した。この近代的なエビ養殖には数億ルビア(一ルを開始した。

模な池主たちはバンデンとの混養を行なう者が多かった。を行なうためには膨大な資本投下を必要としたので、小規を荷なうためには膨大な資本投下を必要としたので、小規ちを魅了し、バンデン養殖を行なってきた池主の多くがエわれた。バンデンに比べればはるかに高価なエビは池主た

一ムが巻き起こった。
 一ムが巻き起こった。
 一ムが巻き起こった。

シアのタンバック面積の推移 表 2

年 度	1980	1985	1989	1990	1991
スマトラ	26,634	36,984	45,773	49,629	49,629
	(24,801)	(31,057)	(40,899)	(42,137)	(43,514)
ジャワ	99,156	121,297	122,644	115,272	130,805
	(79,994)	(99,777)	(102,918)	(94,882)	(108,177)
バリ/チモール	2,956	5,096	5,555	6,705	6,943
ヌサテンガラ	(2,092)	(4,074)	(4,359)	(5,756)	(6,043)
カリマンタン	1,111	3,430	11,259	12,011	12,754
	(946)	(2,697)	(6,123)	(9,210)	(9,370)
スラウェシ	58,743	72,044	84,828	86,790	90,671
	(47,235)	(60,477)	(77,061)	(78,793)	(82,394)
マルク	1	17	128	131	131
イリアンジャヤ		(15)	(100)	(107)	(107)
合 計	188,601	238,868	269,887	268,326	290,933
(Ha)	(155,068)	(198,097)	(231,460)	(230,885)	(249,605

ビブームだ。

り立てたのだった。これがインドネシアにおける第二次エ

古くからあったタンバックではバンデンからエビへの

転

の変化を示したものだが、畦道を含む面積の増加を見ると、 島からいわゆる外島(スマトラ島、スラウェシ島、 が開発できると考えられ、 も相当する。その数字を根拠にまだまだ新たなエビ養殖池 れはインドネシアに存在するマングローブ地帯の二〇%に なマングローブ地帯の面積は八四万へクタールとされ、 州では新たなタンバックが次々とマングローブ林を切り開 換がはかられ、さらにスマトラのアチェ州や南スラウェシ ンタン島など)ではタンバック面積は増加していった。 いて造成された。 表2は一九八〇年から一九九一年までのタンバック面積 政府の推計ではタンバックへの転換可能 すでに飽和状態であったジャワ

カリマ

めに、 次々と集約型の養殖池が誕生した。この集約型エビ養殖事 が出るたびに、それが刺激となって人々をエビ投資へと駆 か、 こそこでは一回の収獲で一〇トン以上ものエビが獲れたと 業には個人だけでなく、 多額の利益をあげて大儲けをしたという噂や新聞記事 環境に対する配慮や明確な生産計 出版会社などの企業も参入し、ど 画 0) ないまま、

し、次いでスラウェシ島が三一%、スマトラ島が一七%とタンバック面積の内訳を見ると、ジャワ島に四五%が集中一・五倍にも増加しているのがわかる。一九九一年現在のたタンバック面積が一九九一年には二九万ヘクタールと一九八〇年にはわずか一九万ヘクタールにしか過ぎなかっ

しかし、一九八五年以降が中り島では新たなタンバックが開拓されていないが、スマトラ島やカリマンタン島、スが開拓されていないが、スマトラ島やカリマンタン島、スではタンバックが存在したアチェや南スラウェシではタンバックが造林が切り開かれ、エビ養殖のために新たなタンバックが造体が切り開かれ、エビ養殖のために新たなタンバックが造成されていったことを物語っている。さらに、一九八〇年にはタンバックがほとんどなかったマルク州やイリアンジャヤ州にまでタンバックが生まれている。エビ養殖プームはインドネシア全土に拡大しているのだ。

減少に転じ、エビとバンデンの混養、エビのみを養殖するたまで増加し、バンデンのみを養殖する世帯は横ばいから大○○世帯だったのが、九一年には一○万四○○世帯大○○○世帯だったのが、九一年には一○万四○○世帯

世帯数が突然増加する。それについては少しあとで述べられるが、エビ養殖業を襲った病気の発生が関係しているのではないかと思われる。そのにういては少しあとで述べることにしよう。

こうしたタンバック面積の増加には目をみはるものがたのである。特に八七年以降の増加には目をみはるものがたのである。特に八七年以降の増加には目をみはるものがたのである。特に八七年以降の増加には目をみはるものがある。

漁業が盛んに行なわれた結果、再びエビ漁獲量が増加した工ビトロール漁業禁止によって一九七九年の一三万トンを生産量を上回っている。これは、トロール禁止以後政府が生産量を上回っている。これは、トロール禁止以前の生産量を上回っている。これは、トロール禁止以前の上産量を上回っている。これは、トロール禁止以前の上産量を上回っている。これは、トロール禁止以前の上産量を上回っている。これは、トロール禁止以前の地震が盛んに行なわれた結果、再びエビ漁獲量が増加した漁業が盛んに行なわれた結果、再びエビ漁獲量が増加した

り沿岸のエビ資源枯渇が問題になったが、何のことはないり沿岸のエビ資源枯渇が問題になったが、何のことはないロール禁止後も日系合弁会社による大規模なエビ漁業が続ロール禁止後も日系合弁会社による大規模なエビ漁業が続けられ、ジャヤンティグループやアストラグループの傘下の企業が大規模エビ漁業(トロール改造網を用いている)を行なっているのだ。一体資源乱獲問題はどこへいってしまったのだろうか。

われたのが集約型養殖方式であった。

養殖に対してエビ養殖ブームの到来とともに企業的に行な

とりまく状況が一変し、エビ養殖が大きな危機に陥っていになってこれまで急成長を遂げてきたエビ養殖関連産業を様々な問題が見えかくれしている。しかも、一九九〇年代

二・台湾における集約型養殖経営の破綻

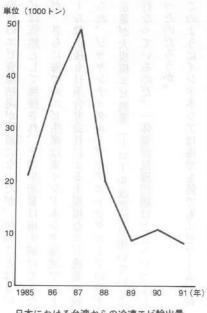
るのだ。

エビ

(ブラックタイガー) の人工繁殖技術

(人工種苗

生



単位 (1000トン) 80 70 60 50 40 30 20 10 0 1987 88 89 90 (年)

日本における台湾からの冷凍エビ輸出量

台湾の養殖ブラックタイガー生産量

にエビの集約型養殖業が発展した。その生産性の高さによ発され、その後一九七二年には人工飼料が開発されて急速産)は、エビ養殖の先進国であった台湾で一九六八年に開

って台湾の養殖エビの生産量は急増し、一九七七年には

こうした急速なエビ養殖業の発展と輸出量増加は のブラックタイガー生産量は激減し、 業者は壊滅的打撃を受けたのである。 にはエビの大量死を招いた。これにより、 飼料の供与、病気予防のための抗生物質の多用などによる よる地盤沈下や池の環境悪化、 エビバブルをもたらしたものの、 日本への冷凍エビ輸出国のトップに躍りでた。 さらにウイルス性の病気の発生によって一九八八年 水の汚染 地下水の大量汲み上げに そして、数年で台湾 一九九〇年現在、 品質の悪化した 台湾のエビ養殖 一時的 しかし わ

にも達

ーチ

七年には七・九万トン(ブラックタイガーのみ/流研リサ

「シュリンプレポート」No・5380より)

〇〇〇トンを超え、

毎年倍増していった。そして、

一九八

しかし、こうした台湾のエビ養殖業者や飼料会社は、ずか九〇〇〇トンに満たない状況に陥ってしまった。

ドネシアで今度は同じような問題が発生し始めているのだ。事業を行なうようになったといわれる。そしてタイやインタイやインドネシアの華人資本と提携して新たなエビ養殖本とエビ養殖技術を東南アジアの他の国へと移転させ始め、

三.エビ養殖への企業参入と現状

出したのだった。
出したのだった。
出したのだった。
出したのだった。
には、次々と養殖関連産業分野に進った企業グループ傘下の会社がエビ養殖関連産業分野に進った企業グループ傘下の会社がエビ養殖関連産業分野に進出したのだった。

いる。さらに、国内外の華人資本もエビ関連産業分野に進だといえる。さらに、一九八五年に事業を開始したフェだといえる。さらに、一九八五年に事業を開始したフェループ(アリシャバナー族が経営)傘下の会社であり、二七〇億ルピアをエビ関連事業に投資している。こうした企士の億ルピアをエビ関連事業に投資している。こうした企工など一貫したエビ事業が八〇年代の後半には展開されて工など一貫したエビ事業が八〇年代の後半には展開されて工など一貫したエビ事業が八〇年代の後半には展開されて工など一貫したエビ事業が八〇年代の後半には展開されて工など一貫したエビ事業が八〇年代の後半には展開されて、人工飼料生

伝統的養殖池を経営してきた池主には手の届くような事業 ○%は、伝統的養殖(粗放)によるもので、零細規模経営 はわずか三%程度にしか過ぎないといわれる。集約型養殖 はわずか三%程度にしか過ぎないといわれる。集約型養殖 しかし、インドネシアのエビ養殖池(タンバック)の九

ている会社は四六五社もある。その内の一七七社はジャワられており、一九九一年現在、企業的エビ養殖業を行なっ一方、エビ事業は企業にとっては大きな投資機会と考え

ではなかったのである。

四年現在、投資総額は一五一億ルピアにも上る巨額なもの

ていたカルティカ・クレスノ・サクティ社の場合、

一九八

例えば、ジャカルタ市郊外のタンゲランで操業を開始し

出している。

島に、一六〇社はスマトラ島に集中している。さらに、一九九二年五月の時点では一六社が投資調整局からのエビ事業への投資許可を取得し、その内八社がエビ養殖業、二社が養殖と冷凍エビ加工、五社が冷凍工場、残る一社が加工が養殖と冷凍エビ加工、五社が冷凍工場、残る一社が加工が養殖と冷凍エビ加工、五社が冷凍工場、残る一社が加工が養殖と冷凍エビ加工、五社が冷凍工場、残る一社が加工が養殖とからの投資を予定しており、中にはフランスとの合弁会社も含まれている。しかし、これらのエビ事業への投資は必ずしも儲かる事業ではないことが分かり始めてきた。そのきっかけとなり、これらの企業だけでなく零細規た。そのきっかけとなり、これらの企業だけでなく零細規た。そのきっかけとなり、これらの企業だけでなく零細規を強値がかつて経験した養殖池及び周辺の環境悪化と病気で養殖がかつて経験した養殖池及び周辺の環境悪化と病気の発生による大量死であった。

盛んに行なわれた。

◆病気の多発

ル当たり三万から四万尾にものほる稚エビを投入し、人工積は〇・五から一ヘクタールと小さいものの、一ヘクターンポ』、九三年九月一一日号)、これらの集約池は、池の面一九九三年現在、一ヘクタールの集約型養殖池を造るの

飼料と水車による強制的酸素補給を行ない、完全に人間が管理・制御する方式である。養殖期間も短くなり、一年間管理・制御する方式である。養殖期間も短くなり、一年間を通く、生産性は粗放養殖池の一○倍以上の五トンから八と高く、生産性の高さのみがエビ養殖は儲かる事業だとある。この生産性の高さのみがエビ養殖は儲かる事業だとある。この生産性の高さのみがエビ養殖は儲かる事業だとある。この生産性の高さのみがエビ養殖は儲かる事業だとある。この生産性の高さのみがエビ集約養殖池への投資がいう錯覚を人々に与え、多くのエビ集約養殖池への投資がいう錯覚を人々に与え、多くのエビ集約養殖池への投資がいう錯覚を人々に与え、多くのエビ集約養殖池への投資が

実際にはエビ養殖は工業生産とは異なり、たとえ集約方 実際にはエビ養殖は工業生産とは異なり、たとえ集約方 実際にはエビ養殖、特に集約型の養殖がリスクが高く、 はようやくエビ養殖、特に集約型の養殖がリスクが高く、 はようやくエビ養殖、特に集約型の養殖がリスクが高く、 はようやくエビ養殖、特に集約型の養殖がリスクが高く、 実際にはエビ養殖が出れなどの池管理と周囲の環境維持が必 実際にはエビ養殖は工業生産とは異なり、たとえ集約方 実際にはエビ養殖は工業生産とは異なり、たとえ集約方 実際にはエビ養殖は工業生産とは異なり、たとえ集約方

要だと気づき始めたようである。

一九九〇年代になって集約型養殖池だけでなく、粗放養殖池でもエビの病気が多発するようになった。その原因は水の管理ができていなかったためである。集約池の場合はいう結果をもたらした。さらに海水は河川から流れ出る工町が着果をもたらした。さらに海水は河川から流れ出る工業排水や家庭排水などにより汚染が進み、バクテリアやウ業排水や家庭排水などにより汚染が進み、バクテリアやウスに対する耐性が弱かったということもあって、一度病気が発生すると瞬く間に広がり、池のエビが全滅するという事態が各地で発生したのだった。

殖を行なってきた。そのつけが回ってきたといえるだろう。 があり、稚田菌(クナンクナン/蛍病と農民は呼んでいる)があり、稚 が大量死するなどの被害が出ている。さらに、汚染された水は、河川を通じて粗放養殖池にまで拡大し始め、大 れた水は、河川を通じて粗放養殖池にまで拡大し始め、大 があり、稚 発生しているエビの病気はウイルス性(MBV)と発光性

ピアに上る。

いう。これらの養殖業者が抱える負債総額は二四○○億ルルピアにも達していると伝えている。なかでも東ジャワ州には三○○へクタールにのぼる集約型養殖池が存在するには三○○へクタールにのぼる集約型養殖池が存在するが、そのうち二○○○へクタールが事業を停止しているとが、そのうち二○○○へクタールが事業を停止しているという。これらの養殖業者が抱える負債総額は二四○○億ルいう。これらの養殖業者が抱える負債総額は二四○○億ルいう。これらの養殖業者が抱える負債総額は二四○○億ルいう。これらの養殖業者が抱える負債総額は二四○○億ルいう。これらの養殖業者が抱える負債総額は二四○○億ルいう。これらの養殖業者が抱える負債総額は二四○○億ルいう。これらの養殖業者が抱える負債総額は二四○○億ルいう。これらの養殖業者が抱える負債総額は二四○○億ルいう。これらの養殖業者が抱える負債にいる。

クに陥れてい

れている。

本稼働しているのはわずか二〇社にしかすぎないと述べらのだ。東ジャワ州には五二カ所の冷凍工場があったが、現加工場も原料が集められず閉鎖に追い込まれているという加工場も原料が集められず閉鎖に追い込まれているという

リスク、ハイリターンをもたらしたエビ養殖方式はもはやいスク、ハイリターンをもたらしたエビ養殖方式はもはやはエビ養殖へと突き進んできたが、九〇年代になってハイはエビ養殖へと突き進んできたが、九〇年代になってハイはエビ養殖へと突き進んできたが、九〇年代になってハイはエビ養殖へと突き進んできたが、九〇年代になってハイはエビ養殖へと突き進んできたが、九〇年代になってハイはエビ養殖へと突き進んできたが、九〇年代になってハイはエビ養殖へと突き進んできたが、九〇年代になってハイ

うとしている。 壊滅状態にあり、新たなエビ養殖事業の方向が模索されよ

四、インドネシアの伝統的汽水養殖技術

の周囲に溝を掘った時の土が盛られて高くなっている。の周囲に溝を掘った時の土が盛られて高くなっている。オンドネシアのタンバック養殖の歴史は三○○年以上にながっている。また、上空から見ると池の中央部には池で広がっている。また、上空から見ると池の中央部には池で広がっている。また、上空から見ると池の中央部には池で広がっている。また、上空から見ると池の中央部には池で広がっている。また、上空から見ると池の中央部には池で広がっている。また、上空から見ると池の中央部には池で広がっている。

で広がっているところもある。これらのタンバックは一つ域のタンバックは内陸にむかって二〇キロメートルもの幅もの面積をもつものもあり、形はさまざまである。この地もの面積をもつものもあり、形はさまざまである。この地一方、ブンガワン・ソロ(ソロ川)からブランタス川の周一方、ブンガワン・ソロ(ソロ川)からブランタス川の周

干潮時に水が流れ出すしくみになっている。

は満潮時には汽水が流れ込み、バンデンやエビの養殖には池となったといわれる。川の河口域につくられた養殖池にパイト王国の時代に塩田として造成されたものが後に養殖この東ジャワのタンバックはすでに一三世紀頃、モジャ

最適の環境を作り出していた。

となっている。また、中央部の浅い所には餌となる藻やプデンやエビが、太陽の光や鳥などの襲撃から身を守る場所メートルほどの溝が掘られている。この溝は池の中のバンタンバックの周囲には幅六メートル、深さ○・六から一

ランクトンが発生する。

ることができる。しかし、満潮の時か、雨が降らないと水など、その位置によって三つの形態がある。第一は最も海岸に近い位置にあるもので、Tambak Lanyah(泥質のタンバック)と呼ばれる。このタンバックは、干満の差の影響を強く受け、内陸一・五キロメートルにまで海水が流入する。海水を直接利用できるので、塩分濃度の非常に高い水る。海水を直接利用できるので、塩分濃度の非常に高い水る。海水を直接利用できるので、塩分濃度の非常に高い水ることができる。しかし、満潮の時か、雨が降らないと水

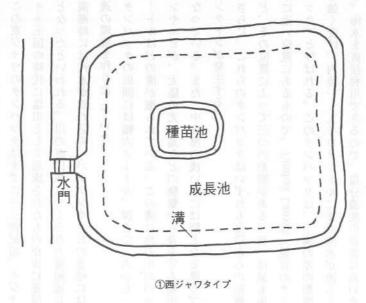
は海水よりも高くなる。の交換はできず、水が蒸発することによって池の塩分濃度

第二はこの沿岸部のタンバックの背後に広がる一般的な外になり、塩分濃度も一五パーミル程度になる。しかし、水になり、塩分濃度も一五パーミル程度になる。しかし、乾期が長く続き、海面の水位がタンバックの水位よりも低乾期が長く続き、海面の水位がタンバックの水位よりも低むり、水は池の周囲の溝(チャレン;Caren)だけになってなり、水は池の周囲の溝(チャレン;Caren)だけになってなり、水は池の周囲の溝(チャレン;Caren)だけになってなり、水は池の周囲の溝(チャレン;Caren)だけになってなり、水は池の周囲の溝(チャレン;Caren)だけになってなり、水は池の周囲の溝(チャレン;Caren)だけになって

燥してしまうこともある。塩分濃度も五から一〇パーミル養殖することができない。もし雨が降らなければ、池は乾れた場所に位置する。このようなタンバックは雨期にしか第三は、内陸部のタンバックであり海岸からは非常に離

程度であり、バンデンやエビの養殖には不適切である。

うした新たな環境に適応した養殖技術を考案し、発展させ響を及ぼしている。タンバックを経営する農民たちは、そ年にわたる自然環境の変化もタンバックの発展に大きな影で異なる環境を背景に造成され、発展してきた。そして長以上のように一口にタンバックといっても、地域によっ



◆伝統的養殖池の三つのタイプ

水門が一つつくられている。また、池の中央部には小さな水門が一つつくられている。第一の西ジャワタイプの二つに分けられると述べたが、それをも東ジャワタイプの二つに分けられると述べたが、それをも東ジャワタイプの二つに分けられると述べたが、それをも東のタンバックの形態は大きく分けて西ジャワタイプと

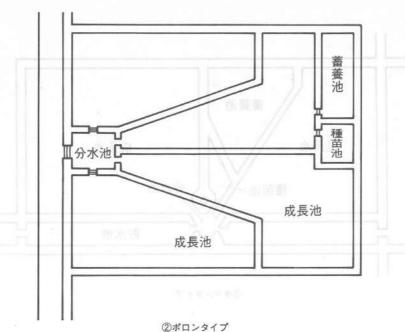
その一つは、ボロン (Porong) タイプと呼ばれ、日本軍占地があり、ここにはバンデンやエビの種苗が、池の環境にある。 東ジャワタイプは、さらに二つのタイプに分類される。 東ジャワタイプは、さらに二つのタイプに分類される。 東ジャワタイプは、さらに二つのタイプと呼ばれ、池の環境に池があり、ここにはバンデンやエビの種苗が、池の環境に池があり、ここにはバンデンやエビの種苗が、池の環境に池があり、ここにはバンデンやエビの種苗が、池の環境に

図(②)に示すように、いくつかの池が一つのユニット

って考案されたものである。

領期以前に東ジャワのシドアルジョ、ポロンに水産局によ

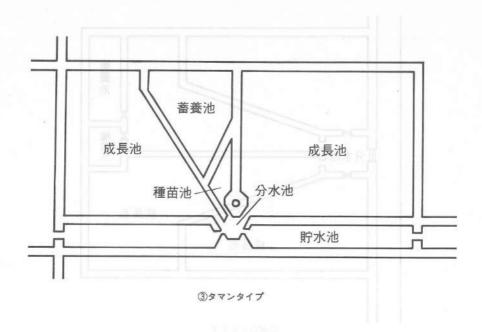
92



buyaran) で育てられ トのタンバックの面 トのタンバックの面 もう一つはタマン もので、シドアルジ もので、シドアルジ

となっており、第一の水門が水路に向かって開いている。となっており、第一の水門が水路に向かって開いている。となっており、第一の水門が水路に向かって開いている。となっており、第一の水門がある。また、分水用の池はバン成長池の数に応じて水門がある。また、分水用の池はバンボンやエビを集めて収獲するのに利用される。さらに、一つのユニットには一〇〇から九〇〇平方メートル(一〇〇平方メートルをアレ;areと呼ぶ)の広さの種苗池(Petak peneran)がある。ここにまず種苗が放養され、池の水に適応させ、次いで一定程度成長するまで蓄養池(Petak buyaran)で育てられ、その後成長池に移される。一ユニットのタンバックの面積は普通、七ヘクタール程であるが、トのタンバックの面積は普通、七ヘクタール程であるが、スラバヤやシドアルジョ周辺では二〇から四〇ヘクタールスラバヤやシドアルジョ周辺では二〇から四〇ヘクタールスラバヤやシドアルジョ周辺では二〇から四〇ヘクタールスラバヤやシドアルジョ周辺では二〇から四〇ヘクタールスラバヤやシドアルジョ周辺では二〇から四〇ヘクタールスラバヤやシドアルジョ周辺では二〇から四〇ヘクタールスラバヤやシドアルジョ周辺では一〇から四〇ハクタールスラバヤやシドアルジョ周辺では一〇から四〇ハクタールスラバヤやシドアルジョ周辺では一つから四〇の水の水の地には、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールが、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールが、アンボールでは、アンボールの水には、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールが、アンボールが、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールでは、アンボールを集中では、アンボールのでは、アンボールでは、アンがでは、アンがでは、アンがでは、アンがでは、アンがでは、アンがでは、アンでは、アンがでは、アンでは

(Gutekan)と呼ばれる水深の深い分水用の池がある。乾期もので、シドアルジョのタマン地域に見られる。これは、もので、シドアルジョのタマン地域に見られる。これは、な場所につくられたもので、形態はポロンタイプに似ている。しかし、水を一時的に蓄えておくためのジョロナンる。しかし、水を一時的に蓄えておくためのジョロナンる。しかし、水を一時的に蓄えておくためのジョロナンる。しかし、水を一時的に蓄えておくためのジョロナンを場所につばタマン(Taman)タイプ(図③)と呼ばれるもう一つはタマン(Taman)タイプ(図③)と呼ばれる



ようになり、若干その生産性は向上するようになった。こ 培する」という要素を養殖に取り入れたのであった。それ やエビが「育つ」のを待つというものから、 れまでの天然種苗と恵まれた自然環境に依存してバンデン 機肥料の投与や米ぬかなどの農業廃棄物を餌として与える 向上は長い間見られなかったが、一九七〇年代になって有 は年間一ヘクタール当たり、三〇〇キロから五〇〇キロに ものであった。いずれも、生産性は低く、バンデンの収獲 る。特に、長年にわたってバンデンの養殖のために地域の にともなって、エビやバンデンは「育つ」ものから「育て 殖といっても自然環境に左右されることが多く、生産性の しかすぎず、またエビはバンデンの副産物でしかなかった。 環境や生態系に対応させて農民たちが考え、つくりだした であり、天然の餌によってバンデンやエビが養殖されてい のであることが分かるだろう。 の特徴は水の調達が困難な地域に適応させて建設されたも ンに集められ、収獲もここで行なわれる。このタンバック こうしたバンデンを対象とした伝統的粗放養殖池は、 以上の三つのタイプのタンバックは伝統的な粗放養殖池 農業的な「栽

にタンバックの水が干上がった場合、バンデンはジョロナ

「栽培」されるようになり、さらに池の構造や養殖方法に改て、八〇年代になってこれらの養殖池でエビが本格的にる」ものへと農民の意識も変わっていったのである。やが

善が加えられるようになったのであった。

五、ポリカルチャーからモノカルチャー養殖へ

無さるらのざ。 和放養殖池に少しずつ改善を加えてより生産性を高めよ 方法で行なわれていた。これは、粗放養殖の改良型とでも がおる。一九七○年代にはスマトラのアチェで次のような ばれる。一九七○年代にはスマトラのアチェで次のような はれる。一九七○年代にはスマトラのアチェで次のような はなる。日本のような はなる はなる。日本のような はなる。日本のような はなる はなる。日本のような はなる はなる。日本のような はなる。日本のような はなる。 はなる。

ンバック内の害魚駆除には茶の実のかす (Bungkil biji teh) ンバック内の害魚駆除には夢かなマングローブ林が発達しており、エビ(ホワイトの一種)の天然種苗も豊富だった。だり、エビ(ホワイトの一種)の天然種苗も豊富だった。だり、エビ(ホワイトの一種)の天然種苗も豊富だった。だいがあかなどを補助飼料として与えたり、それらを腐らせは米ぬかなどを補助飼料として与えたり、それらを腐らせは米ぬかなどを補助飼料として与えたり、それらを腐らせは米ぬかなどを補助飼料として与えたり、それらを腐らせて肥料にし、クレカップを繁殖させるのである。また、タフバック内の害魚駆除には茶の実のかす(Bungkil biji teh)

投与するとエビは死なないが魚は死んでしまうのでエビのが用いられていた。これを一○~一五PPM程度の濃度で

生存率は高くなる。

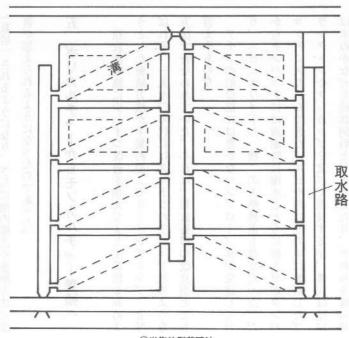
るという方式は、半集約型養殖への第一歩だと言えるだろに肥料を投与することによって土地(池)の生産性を高めこのように補助飼料を与えたり、農薬を用いたり、さら

はむきエビにしてヨーロッパ向けに輸出されてきた。○キログラムになる。さらにさまざまな魚が収獲できる。その後も養殖ができるので一年間に五から六回は収獲が可能となり、一年間に一ヘクタール当たり一〇〇キロから能となり、一年間に一ヘクタール当たり一〇グラム程度の大きさて、二カ月後エビは一尾当たり一〇グラム程度の大きさて、二カ月後エビは一尾当たり一〇グラム程度の大き

ため、自然の恵みといってよく、農民の貴重な副収入源だの時に池に入り込んだものだ。天然飼料のみによって育つズンで三〇〇キログラムになる。このエビは海から稚エビオンで三〇〇キログラムになる。このエビは海から稚エビまた、収獲されたエビの中には、国内の中華料理屋でゆまた、収獲されたエビの中には、国内の中華料理屋でゆまた、収獲されたエビの中には、国内の中華料理屋でゆ

ビだけを養殖する半集約型のモノカルチャー方式が誕生しするボリカルチャー方式であったが、八〇年代になってエ

従来の養殖方式は、粗放養殖池でバンデンとエビを混養



④半集約型養殖池

図(④)はエビの半集約型養殖池である。このタイプは八〇年代になって急速に増えてきた。それまで形がまちまちであった粗放養殖池を一面が一から三ヘクタールほどのために、取水用の水路と排水路が整備されている。そのため池には水門が二つある。この取水口から排水口にかけて地の中央部にはチャレン(caren)と呼ばれる溝が掘られている。この溝は幅が五から一〇メートルほどのもので、取水口から排水口にかけて傾斜が設けられている。それは池の乾燥時に排水を容易にするためとエビなどの収穫を容易にするための工夫である。このチャレンは三〇から五〇センチメートルの深さがあったり、タンバックに水が満杯になった場合、この部分の水深り、タンバックに水が満杯になった場合、この部分の水深

日中はエビの休息場所となる。農民のなかには池の周囲には一メートルほどになる。そのため、底の水温は常に低く、り、タンバックに水が満杯になった場合、この部分の水深らのチャレンは三〇から五〇センチメートルの深さがあ

レカップはエビやバンデンの天然飼料となるが、塩分濃度になる。ここにはクレカップと呼ばれる藻が繁茂する。クラタラン;pelataran)の水深は約四〇から五〇センチほどチャレンを掘るものもいる。チャレンを掘らない池底(プ

が三〇パーミルよりも高い方がよく繁殖する。

半集約型養殖方法は、一シーズンで一ヘクタール当たりとのであり、農作物の残りかすや小魚や貝類をすりつぶしかし、餌といっても農民が簡単に手にいれることのできるかし、餌といっても農民が簡単に手にいれることのできるかし、餌といっても農民が簡単に手にいれることのできるかし、餌といっても農民が簡単に手にいれることのできるためので、人工飼料ではない。

の大きさになる。また、種苗放養から収獲までの期間は四とができる。エビの大きさも一キロあたり二五から三〇尾ール当たり六〇〇キロから八〇〇キロのエビを収獲するここのような方式で養殖を行なうと一回の収獲で一ヘクタ

から五カ月ほどである。

り、水門には外敵(肉食の魚類の稚魚)が入り込まないように新しい水と換えてやることが大切である。また、稚工うに新しい水と換えてやることが大切である。また、稚工

換のためにボンプを用いる者もいる。

しかし、池の構造を変えるためには、かなりの資本を必要とする。中部ジャワではエビ養殖だけを目的としたこのタイプのタンバックが、アジア開発銀行(ADB)の融資を受けて作られている。また、最近では急速に天然飼料から人工飼料への飼料供給を行なっていた飼料会社(デャルン型養殖池への飼料供給を行なっていた飼料会社(デャルン自社製造の飼料の販売先を半集約型養殖池に向けたことに自社製造の飼料の販売先を半集約型養殖池に向けたことによる。これによって小規模なエビ養殖農民たちが、飼料会よる。これによって小規模なエビ養殖農民たちが、飼料会よる。これによって小規模なエビ養殖農民たちが、飼料会よる。これによって小規模なエビ養殖港にちが、飼料会よる。これによって小規模なエビ養殖港にちが、飼料会よる。これによって小規模なエビ養殖港にあるいは人工飼料の投与から完全な人工飼料依存に陥る可能性があり、現料の投与から完全な人工飼料依存に陥る可能性があり、現料の投与から完全な人工飼料依存に陥る可能性があり、現料の投与から完全な人工飼料依存に陥る可能性があり、現料の投与から完全な人工飼料依存に陥る可能性があり、現料の投与から完全な人工飼料依存に陥る可能性があり、現料の投与から完全な人工飼料依存に陥る可能性があり、現料の投与から、アジャースを通常を表しているといってよいます。

◆集約型エビ養殖

だろう。

集約型養殖池には多額の投資が必要である。池の管理を



この水の管理が十分に行なわれなければ、堆積物が腐って ならない。そうした場合、エビの排泄物や残った餌が水を ると一五トンから三〇トンも、一回に収獲されている。 り年間一〇トンから二〇トンに達する。しかし、台湾など 汚染するので、毎日水を交換してやらなければならない。 ヘクタール当たりに一三万尾もの稚エビを放養しなければ ではコンクリート製の池では一ヘクタール当たりに換算す しかし、このような収獲を得るためには、池面積〇・ 技術レベルにもよるが、エビの収量は一ヘクタール当た

もあれば、土のままのものもある。また、周囲だけコンク と小さい。 容易にするために池の面積は〇・二から〇・五ヘクタール 池の周囲と底がコンクリートで固められたもの

リートで固められ、池底は土のままの状態のものもある。 集約型の特徴は何といっても高密度養殖である。一へク

タール当たり、五万から六〇万尾も放養されている。

人工

必要とされ、状況判断が適切にできることが大事である。 しなければならない。こうした池の管理には一定の能力が も頻繁に行なわれ、池底に餌の残り粕がたまらないように に水車が取り付けられている。水質を保つために水の交換 飼料がエビの生育に応じて与えられ、酸素を供給するため

ど望めない。ことになる。エビの場合、病気が発生すると収獲はほとんバクテリアなどが発生し、やがてエビの病気を引き起こす

こうした水の管理を行なうためにはボンプによる強制的な水の投入が常に必要となり、そのためには膨大な資金が必要となる。また、いい水質の水を得るためにはタンバックの建設地の選択にも細心の注意を払わなければならない。また、集約型養殖にとって人工飼料も重要な意味を持つ。だとされるが、一九八八年の餌の価格は一キログラム当ただとされるが、一九八八年の餌の価格は一キログラム当ただとされるが、一九八八年の餌の価格は一キログラム当ただとされるが、一九八八年の餌の価格は一キログラム当ただとされるが、一九八八年の餌の価格は一キログラム当ただとされるが、一九八八年の餌の価格は一キログラム当たがといる。しかも、品質のよい人工飼料を成長に合わせて投与しなければならず、そのためにも
料を成長に合わせて投与しなければならず、そのためにも
多くの資本を必要とする。

産性と投資効果だけに引きずられて養殖事業を開始した多術の蓄積はほとんどなかったといってよい。そのため、生伝統的粗放養殖技術の蓄積はあったが、この集約型養殖技板を習得していなければならないといえる。インドネシアの場合、していなければならないといえる。インドネシアの場合、このように集約型養殖は高収量をもたらしてくれるかわこのように集約型養殖は高収量をもたらしてくれるかわ

紹介した。

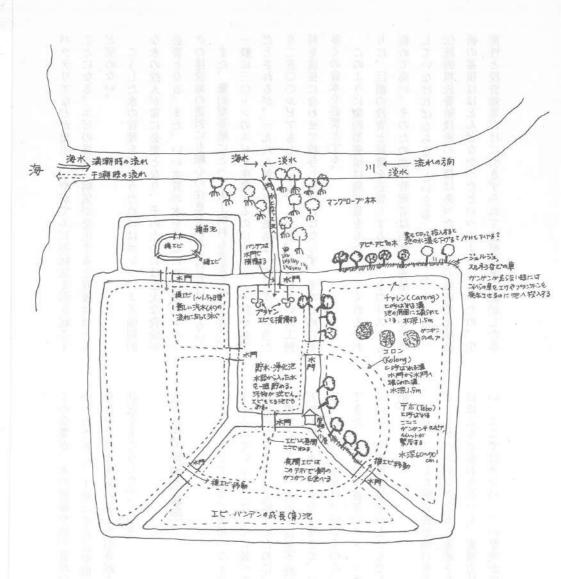
それがエビの病気の発生を引き起こし、台湾と同じようなかったために、土地の生産力が低下し、水の汚染も進み、くの企業が、水の管理や池の管理にたいして関心を払わな

六.粗放養殖の事例

状況をもたらしたのである。

ている。先の養殖技術のところでも三つのタイプについててきた。そこには長年のタンバック農民の知恵が蓄積されてきた。そこには長年のタンバック農民の知恵が蓄積されてきた。そこには長年のタンバック農民の知恵が蓄積されてきた。そこには長年のタンバック農民の知恵が蓄積されてきた。そこには長年のタンバック農民の知恵が蓄積されてきた。そこには長年のタンバック農民の知恵が蓄積されてきた。そこには長年のタンバック農民の知恵が蓄積されてきた。そこには長年のタンバック農民の知恵が蓄積されてきた。そこには長年のタンバック農民の知恵が蓄積されている。先の養殖技術のところでも三つのタイプについている。先の養殖技術のところでも三つのタイプについている。

い。ここではタンバックの歴史が最も古いシドアルジョ地はほとんど変わらないし、養殖方法も大きな差は見られなガー)がバンデンとともに養殖されている。池の基本構造



ハジ・アリリドさんの池

域の粗放養殖池の事例を紹介することにしよう。

なんと三〇〇年以上もの歴史を誇っている。ポロンタイプ るのがシドアルジョやグレシック周辺のタンバック地帯だ。 やタマンタイプの多い地域で、いくつかの池が集まって一 スラバヤの空港へ離着陸する飛行機の窓から眼下に見え

ユニットを形成している。

このシドアルジョ地域の池主、ハジ・アリリドさんやグレ オルター・トレード・ジャパンが現在購入しているのは、

殖池で生産されたエビである。このハジ・アリリドさんの

シックのハジ・アムナンさんの養殖池やその周辺の粗放養

養殖池では、 一切の化学肥料や人工飼料を与えていない。

もちろんバンデンも混養されているまぎれもない粗放養殖

何度か池を見学に行ったが、海岸部の池から内陸部に至

から五面集まって一ユニットとなっている。それぞれのユ 池の面積は一面当たり一ヘクタール程度であり、それが四 るまで河川に沿って広大な池を彼の一族が所有している。

ニットの池総面積は七から一〇ヘクタールにおよぶ。

交じった汽水が取水口から流入するようになっている。

門は鉄木(カユ・ブシと呼ばれる非常に堅い材質の木)で つくられている。頑丈でしかもなかなか腐らない材質の木

柵が設置されている。しかも、バンデンを収獲するときに また、外部から外敵魚が入り込まないように、 を高くすることで池の水位を調節できるようになっている。 だ。水門は二つの仕切りを持っており、板を重ねて仕切り

はこの仕切りの中に魚を追い込み、網ですくいとる。

長池の水を抜いて、エビやバンデンをそこに追い込み、 貯水池は、水を貯める役割を持っているだけでなく、 成

獲するために利用されるので捕獲池と呼ぶこともできる。 この池の面積は成長池に比べてはるかに小さく、 メートル、長さは一〇〇メートルにも満たない。

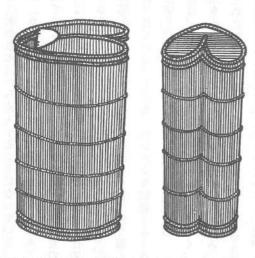
間に二つ、先端には三つのプラヤンが設置されている。 に設けられており、土手からフェンスを張り出し、その中 潮時になると取水口から流れ込む新鮮な水に向かってエビ の漁具が設置されている。この漁具は普通、 が泳いでくる。 取水口の横にプラヤンと呼ばれるエビ捕獲のための竹製 そのエビが自動的にこのプラヤンに入り込 取水口の左右

プの池であることがわかる。満潮時には海水と淡水が入り

ーユニット分の略図であるが、ポロンタイ



エビを獲得するための漁具、プラヤン。新鮮な水をもとめて泳いでくるエビが、自然にかかるようになっている。収獲も自然の力をうまく利用している。



細い竹で編まれたプラヤン。高さは1.2メートルぐらいある。



エビの餌になるクレカップ。

エビを収獲するという方式もある。 るいは排水口に長い袋網を設置し、水を抜くときに同時に 獲技術の代表的なものの一つだ。池によっては取水口、 あ

大きく左右され、一カ月の間の半分ほどしか作業は行なえ だと言われる。また、このような収獲は潮の干満によって 満潮は一日に二回あるが、最も収獲量が多いのが大潮の時 このプラヤンによる収獲は、満潮時に行なわれてい すべて自然任せということになる。また、大潮が夜 つまり、月の満ち欠けが潮の干満と関係しているた る。

は、

ンチずつくらい少しずつ足していく。

最終的には池の水深

される。水は一気に池いっぱいにするのではなく、

掘られている場合もあり、その構造は異なっている。これ 中央部分にコロン (Kolong) と呼ばれるエビの休息場所が いう溝の部分では一・五メートル程になる。池によっては

池の中央の浅い所で六〇から七〇センチ、チャレンと

合もある。 になる場合もあるため、収獲作業は真夜中に行なわれる場

さて、次にこうした養殖池の年間作業について見ておこ

手に積み上げる。取水口の修理も重要な仕事だ。 土手の補修や池の周囲に掘ってある溝の泥をさらって、 乾燥してひび割れができるまで池を干す。そのほか崩れた ず、池の底の泥をすくい上げたりして耕し、その後、 雨期の始まる前の九月には池の整備が行なわれる。ま 土

草の成長には塩分濃度が密接に関係しているという。 また、有機肥料として利用することもできる。こうした水 ず水を入れて放置するとガンガンやクレカップと呼ばれる 水草が繁殖する。これがエビやバンデンの重要な餌になる。 さて、ガンガンが繁茂すると稚エビ(ブヌール) ○月半ば、池に水を入れる。水深二○センチ位までま が放養 103

くっていると思われる。

四月こかけて催止ごが攻撃される。そしてしたら七月頁が収獲後、池は再び乾燥され、同じプロセスを経て三から〇月に放養した稚工ビは二から三月頃に収獲される。エビの収獲までの期間はおよそ四から五カ月であり、一くっていると思われる。

収穫後、池は再び乾燥され、同じプロセスを経て三から収穫後、池は再び乾燥され、同じプロセスを経て三から収穫が、池は再び乾燥され、同じプロセスを経て三から収穫後、池は再び乾燥され、同じプロセスを経て三から

◆リスクが小さい粗放養殖

るのでこの二倍になる。

さて、こうした粗放養殖池の場合の採算はどうなのだろうか。エビは一キログラム当たり、一・三万から一・五万ルピアでEPM社に買い取られるので年間四〇〇キロの収ルピアとなる。だから、一へクタール当たり六〇〇万ルピアの収入になる。たから、一へクタール当たり六〇〇万から七〇〇万ルピアになる。アリリドさんの池は六へクタールあるのでこの六倍になる。しかし、今年(一九九三年)前あるのでこの六倍になる。しかし、今年(一九九三年)前あるのでこの六倍になる。しかし、今年(一九九三年)前あるのでこの六倍になる。しかし、今年(一九九三年)前あるのでこの六倍になる。しかし、今年(一九九三年)前あるのでこの六倍になる。しかし、今年(一九九三年)前あるのでこの六倍になる。

○○尾で一五万ルピアとなる。一万五○○○尾を放養する○○尾で一五万ルピアであるので六へクタール分で二七○万ルピアが必要である。バンデンの稚魚は現在価格が高騰している。五○○尾当たり、二○から四○万ルピアもし、一時一尾が八○ルピアにも値上がったこともあった。仮に一尾三尾が八○ルピアにも値上がったこともあった。仮に一尾三クタールで一八万ルピアである。六へクタールの池にエビクタールで一八万ルピアである。六へクタールの池にエビクタールで一八万ルピアである。六へクタールの池にエビクタールで一八万ルピアである。六へクタールの池にエビクタールで一八万ルピアである。

買い取り価格の変動は池主の収入を大きく左右する。 置い取り価格の変動は池主の収入を大きく左右する。 ただ、この計算は大ざっぱなものであり、エビの生存率や、ただ、この計算は大ざっぱなものであり、エビの生存率や、ただ、この計算は大ざっぱなものであり、エビの生存率や、ただ、この計算は大ざっぱなものであり、エビの生存率や、ただ、この計算は大ざっぱなものであり、エビの生存率や、ただ、この計算は大ざっぱなものであり、エビの生存率や、ただ、この計算は大ざっぱなものであり、エビの生存率や、ただ、この計算は大ざっぱなものであり、エビの生存率や、ただ、この計算は大ざっぱなもの収入を大きく左右する。

る。

このように粗放養殖池といえども、一回の収獲でかなり このように粗放養殖池といえども、一回の収獲でかなり まな方式が存在するが、この場合は収益の二五%であっても、土地を持たない農民にとっても大きな魅力である。さ も、土地を持たない農民にとっても大きな魅力である。さ も、土地を持たない農民にとっても大きな魅力である。さ がに、日々の食料にはことかかない。現金支出が極めて少めに、日々の食料にはことかかない。現金支出が極めて少めに、日々の食料にはことかかない。現金支出が極めて少めに、日々の食料にはことかかない。現金支出が極めて少めに、日々の食料にはことかかない。現金支出が極めて少めに、日々の食料にはことかかない。現金支出が極めて少めに、日々の食料にはことかかない。現金支出が極めて少めに、日々の食料にはことかかない。現金支出が極めて少めに、日々の食料にはことかかない。現金支出が極めて少めに、日々の食料にはことかかない。

われる労賃は一日当たり六〇〇〇から七〇〇〇ルピアになこの雇用に関しては管理人に一任されている。彼らに支払業の時には管理人の親戚が労働力として雇用されている。十分と考えられている。それゆえ、収獲作業や池の修理作

七・粗放養殖が抱える問題と発展の可能性

を始めようとすると、粗放養殖であってもかなりの投下資たり五○○○万ルピアもする。仮に六ヘクタールを購入したり五○○万ルピアもする。仮に六ヘクタールを購入したり五○○万ルピアもする。仮に六ヘクタールを購入し エビ養殖が盛んになるにつれタンバックの価格が高騰し

五○○○万ルピアを必要とする。

電分を前払いしなければならず、それでも四○○○万からの一○○万ルピアだと言われている。しかし、最低五年の一○○万ルピアだと言われている。しかし、最低五年ので、賃貸する場合、六ヘクタールで一年間八○○万か

本が必要なことがわかる。

あっても新規に事業を始めようとすると多額の投資を必要エビ養殖は集約型はもちろんのこと、たとえ粗放養殖で

ハジ・アリリドさんのように先祖代々シドアルジョで養殖とするため、零細な農民たちが参入することはできない。

続的に高収量を上げることは期待できないからだ。 機することで資本を蓄積しつつある。しかし、集約型養殖にたいしては批判的である。すでに述べたように集約型の場合は巨額の投資が必要なだけでなく、病気の発生などの場合は巨額の投資が必要なだけでなく、病気の発生などの場合は巨額の投資が必要なだけでなく、病気の発生などの場合は、バンデンからエビ養殖へと転

きたのである。

確かに、粗放養殖の場合、ある程度の収益を上げようとすれば、かなり広大な池面積を保有しているタンバックの面積は六〇〇〇ヘクタール以上にも上る。アリリドさんの面積は六〇〇〇ヘクタール以上にも上る。アリリドさんとしても知られており、一族からとても信頼されている。エビブームが各地にエビ成金を生んだ一方で、銀行からの無資も受けることができないような零細な農民は資金的に余裕がなかったため、収獲が思ったほど得られなかったり、余裕がなかったため、収獲が思ったほど得られなかったり、クランバック)を手放さなければならなかった者も多い。しかし、古くからのタンバック農民であるアリリドさんしかし、古くからのタンバック農民であるアリリドさん

さんの所に集荷される。だから、彼がノーと言えばパッカ孫に残していかなければならない財産である。彼らは、夕次が残していかなければならない財産である。彼らは、夕かが、ク経営を行っている。アリリドさんがエビ集買人を兼ねているのも、パッカーと価格交渉が得意だからである。しかも、シドアルジョ周辺のエビの大半はアリリドさんの所に集荷される。だから、彼がノーと言えばパッカー族にとってタンバック農民であるアリリドさん



池の周辺の村人によって行われるブリ。小さな子供たちも参加する。

ーのところにはエビは集まらない。

さらに彼は、資金難に陥っている親戚に融資も行っている。もちろん利子などは取らない。銀行や高利貸しなどから金を借りれば、タンバックが他人の手に渡ることにもないるという人もいる。他人に売ってしまって一時的に現金を手にいれるよりは、タンバックを自分の子や孫の代にまで残すことが大事だと考えているからだ。そして、エビやで残すことが大事だと考えているからだ。そして、エビやバンデンの収獲時に分配金を受け取るのだ。

こうして親戚に信頼されている彼の責任は非常に 株の生活と子孫のために、彼はタンバックを守り続けてい 先祖代々、タンバックによって生きてきたアリリドさん一 失祖代々、タンバックによって生きてきたアリリドさん一 ない。 なのだ。それだけ人々に信頼されてエビ養殖池を管理し、集買人

は確かに低い。しかし、長年にわたって周辺の自然環境を的粗放養殖池タイプである。一ヘクタール当たりの生産性的相次を強力がある。一へクタール当たりの生産性がある。

池なのだ。ある意味では水田となんら変わりはない。は利用できない土地でエビやバンデンを「栽培」する養殖巧みに利用して造り上げてきたタンバックは、水田として

集約型エビ養殖池ではエビの生産性だけを高めるために集約型エビ養殖池ではエビの生産性だけを高めるために発育の表生産力をだめにし、生産性を高めるために化学肥料や農薬である。まずくの果てには土地そのものの豊かさを大量にばらまき、あげくの果てには土地そのものの豊かさを大量にばらまき、あげくの果てには土地そのものの豊かさを大量にばらまき、あげくの果てには土地そのものの豊かさを大量にばらまき、あげくの果てには土地そのものの豊かさを大量にばらまき、あげくの果でには土地そのものの豊かさを大量にばらまき、あげくの果でに負担を強いることになった稲作の近代化と重なる。

上回る。しかし、ナルや水といった自然環境への影響や、とかし、アリリドさんたちのタンバック経営は、いっさしかし、アリリドさんたちのタンバック経営は、いっさしかし、アリリドさんたちのタンバック経営は、いっさしかし、アリリドさんたちのタンバック経営は、いっさしかし、アリリドさんたちのタンバック経営は、いっさしかし、アリリドさんたちのタンバック経営は、いっさしかし、アリリドさんたちのタンバック経営は、いっさしかし、アリリドさんたちのタンバック経営は、いっさしかし、アリリドさんたちのタンバック経営は、いっさしかし、テリリドさんたちのタンバック経営は、いっさしかし、アリリドさんたちのタンバック経営は、いっさしかし、アリリドさんたちのタンバック経営は、いっさ

いだろうか。三〇〇年という歴史がそれを物語っていると「有機栽培」による粗放エビ養殖が最も優れているのではな持続的な再生産、そして豊かな人々の関係という点では、

言えるだろう。

スマトラのアチェ沿岸で行なわれてきた養殖方式ではわらを池の中に肥料として投入してガンガンなどを発生させ、らを池の中に肥料として投入してガンガンなどを発生させ、と替えて、池を有効に利用するという方法も考えられている。それ以外にも稚エビをいったん小さな池で蓄養する業る。それ以外にも稚エビをいったん小さな池で蓄養する業る。それ以外にも稚エビをいったん小さな池で蓄養する業もあり、水田の苗代にあたる池も生まれている。これによりエビの生存率は高まるともいわれている。

利用しながら今後も発展していく可能性は十分に存在し、地ために企業的経営には適さない。確実に自然の力を最大限に利用しながら、創意工夫を重ねて、より品質の良い、健康なエビを「栽培」しているのである。地域によっては池康なエビを「栽培」しているのである。地域によっては池康なエビを「栽培」しているのである。地域によっては池康なエビを「栽培」しているのである。地域によっては池康なエビを「栽培」しているのである。地域によっては池東なエビを通道と、集約型と比較して生産性が低現在の粗放型エビ養殖は、集約型と比較して生産性が低

は多難である。

に発展させることで、農民たちによるエビ養殖業の新しいた発展とその失敗は、生産性の向上と利潤追求をひたすら求め続け、自然環境を破壊し、農民や養殖池が本来持っていめ続け、自然環境を破壊し、農民や養殖池が本来持っている土地や水などの力を無視し続けてきた結果であろう。こうした自然環境をび壊し、農民や養殖池がを来持っている土地や水などの力を無視し続けてきた結果であろう。

しかし、粗放養殖よりも生産性の高い半集約型のモノカしかし、粗放養殖よりも生産性の高い半集約型のモノカしかし、粗放養殖よりも生産性の高い半集約型のモノカしかし、粗放養殖よりも生産性の高い半集約型のモノカしかし、粗放養殖よりも生産性の高い半集約型のモノカ

くれるはずである。

にもインドネシアのエビ養殖の持続的な発展をもたらして方向が生まれてくるのではないだろうか。それが、将来的



祐

『池主ハジ・アムナン』

(五十音順) 月号に記事を掲載。 インドネシアのエコ・シュリンプ産地を取材、「生活と自治」五 生活と自治」(発行/生活クラブ連合会)の記者。一九九二年

大野 和風へ「エビは神からの授かりもの」

の交流活動にも力を入れている。現在、「むらとまちのオルタ計 農業・農村問題を専門とするジャーナリスト。アジアの農民と

る・ムラを超える」(社会評論社)、「コメ 画(RUA)」代表、ATJ顧問。 「現在おコメ大研究」(柘植書房)、「百姓の義

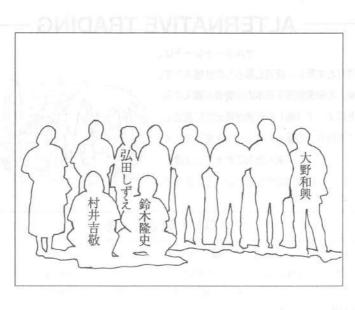
(協同図書サービス)

鈴木 に研究中。 師を務める。現在、アジアにおける海と人との関わりをテー 院に研究生として在籍、九一年から九三年まで愛知学泉大学講 一九八五年から五年間、インドネシアのボゴール農科大学大学 隆史 「岐路に立たされたインドネシアのエビ養殖業」

著書 「フカヒレも空を飛ぶ」(梨の木舎)

ムラを守

産直のパイオニア」



を経てボリビアで小学校の教師を務める。その後、フィリピン、 ニカラグアで民衆支援の活動にたずさわる。現在メキシコ在住。 メルセス会シスター。カトリック系の高校を卒業後、欧米留学 弘田しずえ「ニカカ三年エビから見たニカラグア」

堀田 正彦「エコ・シュリンプと民衆交易の可能性」

オルター・トレード・ジャパン(ATJ)代表。演劇を通して

うためATJを設立。 C)に八六年設立よりかかわり、八七年事務局長に。その後、 フィリピン・ネグロス島からの民衆交易によるバナナ輸入を行 アジアと出会う。日本ネグロス・キャンペーン委員会(JCN

「バランゴン」(ATJ/絵本)

村井 ど日本人にとって身近なものを通して、南と北のオルタナティ 上智大学外国語学部教授。東南アジア社会経済論専攻。エビな 吉敬 『エコ・シュリンプと民衆交易の可能性』

見える」(学陽書房 共著)、「スラウェシの浜辺から」(同文館) 「エビと日本人」(岩波新書)、「エビの向こうにアジアが

プナな関係を提案している。

民衆が共に生きるために

ALTERNATIVE TRADING

オルタートレードは、

民衆自身が作りだす新しい経済と暮らしの仕組みです。

「南」の民衆物産を日本の消費者が購入する、 そのことによって「南」の民衆が経済的に自立し、 日本の私たちは自らの暮らしのあり方を変えていく。 南と北のこれまでとは違う、 新しい関係を作りだしていきます。



マスコバド糖 とくろあめ

マスコバド糖は砂糖きびの搾り 汁を煮詰めて作った黒砂糖です。 製造しているのは、故郷を追わ れた国内難民たち。くろあめは、 マスコバド糖に蜂蜜を加えて作ったものです。

■マスコバド糖

·500g1ケース(20箱)

6,600円

·1kg 1ケース (10箱)

5,500円

■くろあめ1ケース(40袋)6,400円

生協、産直事業体、有機八百屋などでも取り扱われています。 マスコバド糖を使って、くろあめを独自に開発しているところ もあります。

バランゴン-無農薬バナナ

フィリピン・ネグロス島の山の中 で栽培されているバナナ (バラ ンゴン種)です。

代金には、自立農業作りなどを 進めるための基金が含まれてい ます。 ・5キロ 3,500円 ・10キロ 6,700円 (入会金、年会費が各1,000円必要です)

生協、産直事業体、有機八百屋などでも取り扱われています。 送料、消費税込の価格です。

ご購入、資料のご請求はATJへ。

エコ・シュリンプ-有機エビ

インドネシアに古くから伝わる、伝統的養殖方 法で育てられたブラックタイガーです。抗生物 質を使わず、プランクトンなど自然な餌だけで 育ちます。

現在は、生協、産直事業体での販売に限られています。

有機エビの旅

1994年7月5日 初版第1刷発行

発行人/堀田 正彦 編集・発行/(株) オルター・トレード・ジャパン 〒169 東京都新宿区西早稲田3-9-6 TEL 03-5273-8163 FAX 03-5273-8162

定価/600円

表紙デザイン/及部 克人 デザイン・レイアウト/安達 友子 印刷・製本/だいもん印刷

